勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.

勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

――――無言の威圧感を与えるヒュンメル――――

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア／総代理店 大松貿易株式会社

大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL.(06) 213-6646

ロサンゼルス・オリンピックへ 日本勢再起への熱戦を展開

安藤純光

昭和57年度の日本のナショナルチャンピオンを争う第34回全日本総合ハンドボール選手権大会は、12月15日から19日までの5日間にわたって駒沢オリンピック記念公園内駒沢体育館・屋内競技場において開催された。

ふりかえれば、今年度の日本ハンドボール界は苦難の年であった。5月の第8回世界女子選手権大会アジア地域予選に韓国に敗れ、世界への道は遮断され、11月初のアジア大会に参加、ハンドボール界はもちろんのこと日本のスポーツ界から期待されながら中国に敗れアジアの「雄」の座をあけ渡し、一歩後退しなければならなかったのは残念であった。ロサンゼルス・オリンピックも目前に迫り、なんとしてもこの苦難の年からぬけ出して飛躍の年に向ってスタートしなければならない。この意味でも、今回の全日本総合選手権大会のもつ意義は極めて大きいし、期待もまた大きいものがあった。

＜男子＞

ベスト4に勝ち残った湧永製薬、大同特殊鋼、本田技研鈴鹿、日新製鋼は、大方の予想通りの結果であった。この大会は毎度いわれているように、学生勢がどう戦うかが大会を盛りあげる大きな力になるのであるが、今回もまた学生勢のベスト4入りは残念ながら実現しなかった。しかし、2回戦で湧水と対戦した国士館大は、敗れたとはいえ王者湧永にくいさがった試合ぶりは称賛されるべきである。日本リーグを不調で終った本田技研に対戦した日体大に期待がもたれたが、わずかに及ばず惜敗した。

関東学生リーグの覇者日大は、中村荷役を破って2回戦でクラブ選手権大会優勝の滋賀クラブと対戦し、姿を消してしまったのは淋しかった。ようやく日本リーグ2部を脱却して4位となり、復調なったかに見えた大崎電気が、2部の三陽商会に延長戦の末敗れ去った。大崎をとがめるべきか、三陽の健闘を賛えるべきか。とにかく2回戦のハプニングであった。常連湯沢クラブ、三景もそれぞれ日新、大同に善戦したものの敗れ去った。

3回戦ベスト8に駒を進めたのは、日本リーグ勢5、学生勢2、社会人チーム1となった。滋賀クラブが日大を降しベスト8への進出は注目されたが、大同との対戦では力の差如何ともしがたく敗れた。今大会の滋賀クラブの健闘は、クラブ選手権大会チャンピオンの面目躍如たるものがあり、大きな拍手を贈りたい。

学生選手権大会に初優勝して意気あがる大阪体育大は、桜門会を降して学生勢ベスト4入りの一番手として本田技研との対戦は期待されたが、さすが本田技研の意地はこれを許さず、ついに姿を消した。また埼玉教員クラブを延長戦の末破り、栃の葉クラブに勝ってベスト4入りをねらう筑波大は、好調日新の前に24対15と大きく敗れ、大体大ともども枕を並べて倒れ、学生勢のベスト4入りの夢は消えた。

かくして、大方の予想通り準決勝戦に勝ち進んだのは、湧永、本田、日新、大同の日本リーグ勢となった。

4強の対戦は熾烈であった。今シーズン西山の参加を得て好調をほこる日新は、大同にくいさがり、予断を許さぬ好ゲームとなった。日本リーグにおいて五〇〇得点という偉業を達成し、いよいよ円熟したプレーを見せ

昭和57年12月15日～19日＜駒沢体育館・駒沢屋内競技場＞

る名手蒲生の好リードと、一方新人ながら一シーズンを終ろうとしている今、チームの大黒柱、エースとしてこのゲームにも9得点をたたき出した西山の活躍、このゲームを推移する原動力であった。ゲームは、前半の3点差がものをいって大同の決勝進出となった。

準決勝戦での本田は、すばらしいゲームを展開した。前半を終って13対8と湧永リードで終了し、このままゲームが終るかと思わせたが、後半に入って三本松の4得点を含めて9得点、これに対して湧永は穂積が1点、山本がペナルティースローを含めて3点、4対9として同点、延長戦にもつれこんだ。延長戦前半は0対0、後半に入って、日本リーグ最高得点率賞を6年連続獲得の松本の1得点がこの熱戦の終止符となった。

湧永も必ずしも好調とはいえなかったが、本田のこの試合にかける闘志はすばらしいものであった。充実したゲーム内容はスタンドをわかせた。

そして、ファイナルゲームは、またしても湧永対大同の対決となった。両雄の対決は、そのまま現在の日本のハンドボールの力を表現するものであり、幾度対戦してもその度に新らたな興味が期待できる。両チームともお互を知りつくしたベテランプレーヤーを駆使してのゲーム展開は、一瞬のすきも許されない緊迫感にあふれ、充実した内容は、まさにファイナルゲームにふさわしいものとなった。

前日までのゲームぶりからわずかながら大同に分があるかと思われた。大同は蒲生のペナルティースローにつづく得点によって先手をとってスタートした。しかし、湧永5分を過ぎて生駒、穂積の連続得点で逆転、20分を過ぎて田口、大原の得点で今度は大同が主導権をとりもどし、前半を7対6と大同の1点リードで終った。

後半に入って湧永は、好調の生駒（この試合7得点）の活躍で形勢をひっくり返し、大同が湧永を追う形となった。湧永はシーソーゲームを再度逆転すると中ばから3点のリードを奪い、一進一退のゲームを終始優勢に進めて16対13で逃げ切って勝利をおさめ、4年連続6回目の栄冠を獲得した。

＜女子＞

女子の場合も学生勢が、日本リーグ勢に対して如何に戦うかが興味のまとであり、このことが本大会を盛りあげる力となる。しかしながら結果は、学生勢5チームはともに1回戦で姿を消してしまった。なかで東京女子体育大は、大和銀行と対戦し善戦したが、1点に泣き駒を進めることができなかった。

したがって、2回戦以降は日本リーグ所属チームの対戦となり、2回戦の対戦結果はリーグの順位そのまま、上位チームがそれぞれ差をつけて準決勝に進出した。

準決勝戦の一番手は、大崎対ジャスコ戦となった。このカードは、前回大会の決勝戦で顔を合せ、ジャスコが栄冠を獲得している。以後本年度日本リーグの対戦では、大崎が勝利し優位に立っている。来日以来2年を経過した李相玉、李京姫は、もてる力を十二分に発揮し、加えて西と三本柱をもつ大崎の得点力に対して寺沢、横山の得点力で28対23の結果は、ジャスコの善戦というべきところであろう。

立石電機対ブラザー工業戦は、立石有利の前評判に対してブラザーの戦いぶりは目を見はるものがあった。杏原、植田、そして増永を中心に展開した迫力あるゲームは、スタンドを沸かせた。

ファイナルゲームの立石対大崎戦は、大崎にとっては日本リーグの雪辱戦であったが、果たすことができなかった。ドベルニャックが負傷し、本大会戦列をはなれている立石は、薮田、木下、イレッシュの活躍と、もち前の試合運びの巧さによって終始大崎をリードして6年ぶり2回目のチャンピオンの座についた。

大崎は、西、時實が活躍してよく戦ったが、たのみの二人の李が故障から不調で充分な戦力を発揮できなかった。

さて、今大会は出場チームの戦力が接近して初戦から充実したゲームが展開された。とくに男女とも準決勝、決勝戦は見ごたえのあるゲームとなった。先述のように58年はロサンゼルス・オリンピックの予選が行なわれる。多少下向いた日本のハンドボールを上向けるスタートとして、ふさわしい大会となった。

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

CITY
TURBO

ターボ車ナンバー1
10モード燃費
18.6km/ℓ

HONDA

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所

第34回全日本総合選手権大会熱戦の跡

湧永苦戦の末4連覇を達成

―女子は立石が6年ぶりの優勝―

第34回全日本総合選手権大会は12月15日から19日までの5日間、男子24チーム、女子16チームが参加して激しい闘いを展開した。

男子は、湧永製薬が苦しい試合をつづけながらも決勝で宿敵・大同特殊鋼を破って4年連続6回目の優勝を飾った。

一方女子の方は、ともに外人選手の活躍が光る立石電機と大崎電気の決勝戦となったが、立石が大崎をふり切り、6年ぶり2度目の優勝をとげた。

男子

▽1回戦

国士館大 31（15―13、16―9）22 トヨタ車体

	【国士】	得	得	【トヨタ】
GK	矢内	0	0	工藤
GK	渡辺	0	0	大橋
FP	黒沢	3	2	中島
FP	遠藤	5	8	荻原
FP	果山	3	0	高田
FP	池田	9	7	森岡
FP	新垣	0	2	浜口
FP	金丸	0	0	高橋
FP	田村	0	0	石原
FP	内藤	6	0	佐藤
FP	鈴木	5	2	大塚
FP	綿引	0	1	飯笹

（審・岡本 清水）

22（4） PT （6）31

○…両チームとも前半動きが鈍く、展開も一進一退であったかのちに国士大のペースとなる。後半トヨタ車体はサイドからの攻撃をするが、国士大のGKがよく守り更に攻撃の動きも鋭くなり、若さにあふれる国士大が勝利を得た。

三陽商会 36（20―13、16―6）19 七戸ユニオン

	【三陽】	得	得	【七戸】
GK	大山	0	0	酒井
GK	内野	0	0	中野渡
FP	関	10	1	附田
FP	金子	1	0	三浦
FP	田口	3	3	小館
FP	坪子	1	0	岡山
FP	砂川	7	1	堀
FP	山口	11	0	簗田
FP	石原	3	11	佐々木
FP	望月	0	0	田島
FP	鶴沢	0	1	町屋
FP	亀井	0	2	田中

（審・大塚 佐分）

19（2） PT （0）36

○…体力、走力、技術の差は大きく、得点の示す通りワンサイドゲームであった。しかし、七戸ユニオンは最後まで試合を捨てず健闘したことは賞讃される。

桜門会 34（18―14、16―8）22 自衛隊呉

	桜門	【得】	得	【自衛隊】
GK	萩原	0	0	堀井
GK	須藤	0	0	須堯
FP	井口	0	1	岩山
FP	新井田	8	2	寿賀
FP	高野	4	0	塩見
FP	金岡	10	3	和田
FP	藤村	4	2	西川
FP	早坂	3	1	岡田
FP	加藤	0	10	池田
FP	手島	0	0	村岡
FP	高梨	5	3	利光

（審・島崎 井上）

22（3） PT （7）34

○…桜門会が前半呉の積極的な走りにやや押され互角の様相を見せたが、前半中頃からペースをつかみ一気に勝負を決めた。

日体大 41（18―13、23―15）28 東京重機工業

	【重機】	得	得	【日体大】
GK	衣笠	0	0	石井
GK	吉田	0	0	北川
FP	渡辺	0	4	寺山
FP	卯野	0	2	金丸
FP	千葉	5	5	中山
FP	佐藤	4	4	三浦
FP	雨宮	7	5	黒島
FP	福地	0	3	高村
FP	古屋敷	3	4	喜舎場
FP	鷹野	6	5	佐々木
FP	阿部	3	1	望月
FP	高橋	0	8	田中

（審・斉藤 千野）

41（5） PT （0）28

○…立ち上がり重機が2点先行〝これは〟と思わせたが、走力、テクニックともにまさる日体大があわてることなく攻撃をし、5分には逆転、その後日体大のペースでゲームの主導権を握り、得意の速攻で重機を振り切った。しかし重機も最後までゲームを捨てず、好感の持てたゲームであった。

湯沢クラブ 31（16―17、15―11）28 トヨタ自動車

	【湯沢】	得	得	【自動車】
GK	柿崎	0	0	王津
FP	佐藤	0	5	城ケ原
FP	高橋	0	1	高木
FP	古関	5	7	相本
FP	菅野	5	0	近藤
FP	近野	0	0	鈴木
FP	藤原	4	8	川田
FP	半田	9	7	香井
FP	斎藤	6	0	大川
FP	佐藤	2	0	久本
FP	阿部	0	0	松永

（審・上久保 北井）

28（0） RT （1）31

○…前半、湯沢クラブの力に押され15対11と4点のリードを許したトヨタ自動車は、後半必死に追いすがり、13分には1点差としたが、湯沢の粘り強いディフェンスに同点の1点を奪いとることができず、湯沢リードのまま終了の笛を聞いた。両チームともミスの目立つ試合であった。

筑波大 26（12―12、10―10、3―1、1―2）25 埼玉教員クラブ

	【筑波】	得	得	【埼玉】
GK	野田	0	0	阿部
GK	山崎	0	0	田中
FP	吉兼	2	1	松浦
FP	安藤	0	2	佐藤
FP	原井	1	4	山口
FP	朝生	6	7	山田
FP	角	4	0	中村
FP	児玉	9	0	土屋
FP	杉森	4	6	田中
FP	田川	0	3	宮沢
FP	武井	0	2	小山
FP	田中	0	0	小林

（審・福田 松尾）

25（3） PT （3）26

○…1点を争う緊迫したゲームは延長戦にもつれ込み、最後まで予断を許さなかったが、筑波は埼玉の個人個人の執ようなまでの攻撃を粘り強く防ぎ、数少ないチャンスをものにして勝利を掌中に収めた。

日本大 21（11―10、10―7）17 中村荷役

○…立ち上がり中村は粘り強い攻撃でチャンスをうかがうものの、今一歩という苦しい展開をつづけるのに対し、日大はまとまりもあり、攻めのコンビネーションもよく、常にリードを保って前半終了。

後半、ディフェンスを立て直し

	【中村】	得	【日大】	得
GK	飯塚	0	森田	0
GK	高橋	0	宮田	0
FP	飯田	1	糸	4
FP	松本	1	永井	3
FP	坂口	7	馬場	1
FP	西窪	2	伊藤	1
FP	加納	3	出川	0
FP	辻	1	河村	4
FP	三尾	0	田崎	2
FP	塚田	2	内藤	5
FP	永沢	0	金原	0
FP			武田	1
PT		17 (4)		21 (3)

（審・後藤、島田）

気迫のもこった中村は、日大のミスに乗じて追い上げ、10分過ぎに逆転する。その後、一進一退の好ゲームを展開した。残り10分を切り再びリードを奪った日大は、前半のよい動きをとり戻し、粘る中村を突き放した。

三景 23（9－12、14－9）21 千葉教員

	【三景】	得	【千葉】	得
GK	中村	0	釜谷	0
GK	野田	0		
FP	犬飼	4	大鐘	2
FP	巾馬	7	松原	0
FP	地主園	3	内記	1
FP	奥村	1	八重盛	1
FP	藤山	0	植村	4
FP	飯塚	0	浅原	4
FP	近藤	0	永海	0
FP	山田	3	山上	4
FP	大谷	0	大村	0
FP	溝部	5	松井	5
PT		23 (2)		21 (2)

（審・光島、新村）

○…立ち上がり千葉はシュートがバーに当り、また三景GKの好守にはばまれる。その間三景はマイペースで試合を展開。しかし、千葉も15分頃桜井のミドルシュートから追い上げ、9対14で前半を終了。

後半、千葉は連続2点ゲット、22分には2点差と追い上げる。ここでペナルティーを浅原がはずし三景のペースではもや展開、結局は2点差を追いつくことができず三景の勝利に終る。千葉の立ち上がりの不調が惜しまれるゲームであった。

▽2回戦

湧永製薬 20（10－11、10－6）17 国士舘大

	【国士館】	得	【湧永】	得
GK	矢内	0	大城	0
GK	渡辺	0	井藤	0
FP	黒沢	3	浦川	4
FP	遠藤	1	生駒	2
FP	栗山	2	穂積	1
FP	池田	4	藤本	0
FP	新垣	1	志賀	3
FP	金丸	0	戸田	0
FP	田村	5	松本	2
FP	内藤	0	山上	3
FP	鈴木	1	池ノ上	1
FP	綿引	0	内田	4
PT		17 (2)		20 (2)

（審・岡本、清水）

○…15分頃までは湧永には固さが残り、国士館GKの好守もあってパスミス崩れの速攻を招く場面が続き、国士館有利になるかに見えたが、20分過ぎからは津川が要所を締めるミドルシュートを決め安定をとり戻した。

国士館もよく粘り、ピストル的シュートが多かったが健闘したといえる。

湧永は生駒、池ノ上の欠場場面ではパワーに変化がみえすぎるのが気になった。

三陽商会 24（3－2、1－1、10－10、10－10）23 大崎電気

	【三陽】	得	【大崎】	得
GK	大山	0	岡部	0
GK	田村	0	原田	0
FP	関	4	斉藤	7
FP	金子	2	東江	9
FP	田口	0	武田	0
FP	坪子	0	長野	4
FP	砂川	9	櫛田	0
FP	山口	6	松岡	2
FP	石原	3	越退	0
FP	望月	0	宮崎	0
FP	鵜沢	0	星野	0
FP	亀井	0	大沢	1
PT		24 (3)		23 (2)

（審・光島、新村）

○…実力が同じ両チームの試合は、最後まで決着のつかない好ゲームとなったが、勝利の女神はわずかに三陽に微笑んだ。

大崎が先行し三陽がそれを追う展開でゲームが進んだが、お互いに決め手に欠け、後半終了直前の金子のシュートで三陽が同点とし延長を迎えた。延長に入ると三陽が先手をとり大崎が追う形となった。2名の同時退場者を出しながら三陽が踏んばり、大崎をふり切った。両チームともGKの好守の光るやや大味なゲームであった。

大体大 38（18－13、20－15）28 桜門会

○…優れた個人技の桜門会はトリッキーなプレーをおりまぜて絶えずリードするが、10分過ぎやっと大体大が追いつく。以後パワフルなきびきびした大体大とベテラン揃いの桜門会の特長がゲームにもよくあらわれ一進一退がつづく。23分にやっと逆転した大体大は多少疲れの見える桜門会をたたみこむようにリードを奪って前半終了。後半に入っても、前半で燃え尽きた感の桜門会に対しのびのびと実力を十分に発揮する大体大は得点を重ね、余裕をもって勝利を収めた。

	【桜門会】	得	【大体大】	得
GK	萩原	0	高橋	0
GK	須藤	0	小野	0
FP	丸山	0	山本	7
FP	井口	0	上野	5
FP	新井田	3	土山	8
FP	高野	3	玉村	8
FP	金岡	5	菅沼	4
FP	藤村	6	半田	0
FP	加藤	0	西村	5
FP	手島	2	長野	0
FP	高梨	9	小間	1
FP			古賀	0
PT		28 (1)		38 (3)

（審・岡本、清水）

本田技研鈴鹿 28（14－14、14－12）26 日体大

	【日体大】	得	【本田】	得
GK	石井	0	大畑	0
GK	北川	0	中尾	0
FP	寺山	2	佐々木	6
FP	金丸	4	三本松	7
FP	中山	0	喜井	1
FP	三浦	3	長野	2
FP	黒島	0	玉井	1
FP	高村	5	栗屋	1
FP	喜舎場	4	猪野	0
FP	佐々木	7	坂本	4
FP	望月	0	尾上	6
FP	田中	1	田野	0
PT		26 (0)		28 (2)

（審・上久保、北井）

○…最後の最後まで勝敗の行方がわからない熱戦となった。立ち上がり本田は尾上のサイドアタックでリード、そのままペースを握るかに見えたが、日体大も佐々木を中心に速攻でくいつきゲームは後半に持ち越された。後半も終始本田のリードですすんだが、21分日体大・佐々木の退場を境に4点差がつき、結果的にはこの差が大きく意味を持った。

日体大の学生らしい気力のあるプレーが印象に残る好ゲームであったが、本田に一日の長があったといえる。

日新製鋼 29（14－9、15－11）20 湯沢ク

	【湯沢】	得	【日新】	得
GK	柿崎	0	西川	0
GK			三田	0
FP	佐藤	0	泉	2
FP	高橋	1	吉見	8
FP	古関	4	洞ケ瀬	2
FP	菅野	1	脇若	0
FP	近野	0	日野	0
FP	藤原	3	森	4
FP	半田	6	一瀬	0
FP	斉藤	4	高木	6
FP	佐藤	1	西山	6
FP	阿部	0	藤井	1
PT		20 (3)		29 (0)

（審・斉藤、千野）

○…巧者を揃えた湯沢クラブが日本リーグ勢を相手に前半互角の健闘。菅野、半田を軸にオリンピック選手・斉藤が健闘、巧みなパスワークからポスト、ミドルを打ち分ける。しかしながら、さすがに日新もよく守り、若手ナショナルプレーヤー・西山らの鋭い切り込みで湯沢を崩した。湯沢は善戦むなしく敗れ去ったが、日本リーグ3位の日新を相手に古豪クラブチームの試合へのひたむきな姿勢

が好感のもてた一戦であった。

筑波大 34（19－14、15－11）25 栃の葉クラブ

得	【筑波大】		【栃の葉】	得
0	野田	GK	高橋	0
0	山崎	GK	岩下	0
3	吉兼	FP	川田	5
0	安藤	FP	河先	0
4	原井	FP	中山	1
8	朝生	FP	山本	0
3	角	FP	小西	5
5	児玉	FP	大出	0
6	杉森	FP	滝口	10
0	田川	FP	名嘉	4
2	武井	FP	高橋	0
3	田中	FP		
34	(3)	PT	(4)	25

（審・大塚・佐分）

○…立ち上がり栃の葉にリードを許した筑波大は7分ペナルティーを足がかりにして連取、あっさりと逆転してそのまま主導権を握った。その攻撃は、若さにものをいわせよく走り、ロングにカットイン、ポストと加点、GKの好守もあり盛り上がりを見せた。一方の栃の葉もベテランの味をみせ、要所にコンビプレーや個人技の美技を出したが、筑波のディフェンスの近くでの攻めは単調な攻めとなり、大差で敗れた。

滋賀クラブ 23（11－6、12－13）19 日大

○…前半、力強いクィックリーなシュートを決めて優位に立った滋賀クラブに対し、日大は若さで早い展開をみせ必死にくい下がり26分に同点に追いつき1点リードして前半を終了。後半5分過ぎに

得	【滋賀】		【日大】	得
0	石田	GK	森田	0
0	太田	GK	宮田	0
2	位田	FP	糸	3
1	伊藤	FP	永月	0
9	能波	FP	馬場	0
5	井上	FP	伊藤	1
1	武田	FP	出川	0
0	岩本	FP	田口	5
5	村崎	FP	河村	0
0	林田	FP	田崎	0
		FP	内藤	6
		FP	金原	4
23	(4)	PT	(2)	19

（審・斎藤・千野）

滋賀が逆転、以後GKの好守と粘り強いディフェンスで日大の攻撃をよく守り切った。一進一退の好ゲームであった。

大同特殊鋼 30（12－12、18－3）15 三景

得	【大同】		【三景】	得
0	柳川	GK	中村	0
0	上村	GK	野田	0
7	田中	FP	犬飼	7
7	田口	FP	中馬	2
0	桐山	FP	地主園	2
4	大原	FP	奥村	0
1	中本	FP	藤山	0
3	浦田	FP	飯塚	2
6	蒲生	FP	近藤	1
0	更谷	FP	山田	1
2	市川	FP	溝部	0
0	花輪	FP		
30	(3)	PT	(2)	15

（審・島崎・井上）

○…試合前の練習で溝部をアキレス腱切断で失い苦しい三景、懸命に挑戦するが壁は厚く13分過ぎにようやく初得点。大同は立ち上がりスピード、リズムとも今一つ不足、15分過ぎ頃から次第にリズムに乗ってはきたが凡ミスの目立つ前半だった。後半、大同がメンバーチェンジを激しくしたこともあるが、三景も思い切りのよいプレーで追い上げたが、大勢に影響を及ぼすに至らなかった。

▽準々決勝

湧永製薬 23（11－7、12－5）12 三陽商会

得	【湧永】		【三陽】	得
0	大城	GK	大山	0
0	井藤	GK	田村	0
0	津川	FP	関	5
4	生駒	FP	金子	2
3	穂積	FP	田口	0
1	藤本	FP	坪子	0
0	志賀	FP	砂川	2
1	戸田	FP	山口	1
3	松本	FP	石原	2
5	山本	FP	望月	0
1	原田	FP	鵜沢	0
5	池ノ上	FP	亀井	0
23	(4)	PT	(1)	12

（審・佐分・大塚）

○…4年連続6回目の優勝を狙う湧永製薬は、立ち上がりから高いディフェンスで三陽商会のシュートをはばみ、攻めては多彩な攻撃で力のこもったシュートを三陽ゴールに叩き込み着々と得点を重ねた。三陽も速い横の揺さぶりで湧永のディフェンスを崩そうと試みたが、最後まで厚い壁を破れなかった。

本田技研鈴鹿 23（11－8、12－11）19 大体大

○…日本リーグ勢への学生陣の挑戦、次々と敗退する中で最後の切り札は大体大であった。その期待に応えて、大体大は本田打倒にあと一歩まで迫った。

前半は、玉村のロングを軸に終始大体大のリードペース。佐々木の巧技で追いかける本田が大体大をとらえたのは前半残り2分。後半立ち上がり佐々木の連打でやっとペースをとり戻した本田は16－12とリード。結局勝負を決したのは25分。本田の退場のスキをつけなかった大体大に悔いが残るであろう。

得	【本田】		【大体大】	得
0	大畑	GK	高橋	0
0	中尾	GK	小野	0
5	佐々木	FP	山本	3
3	三本松	FP	上野	1
2	喜井	FP	土山	2
3	長野	FP	玉村	7
3	玉井	FP	菅沼	3
0	栗屋	FP	半田	0
1	猪野	FP	西村	3
4	坂本	FP	長野	0
2	尾上	FP	杉山	0
0	田野	FP	小間	0
23	(1)	PT	(0)	19

（審・北井・上久保）

日新製鋼 24（12－9、12－6）15 筑波大

得	【日新】		【筑波】	得
0	西川	GK	野田	0
0	三田	GK	山崎	0
0	泉	FP	吉兼	0
1	徳田	FP	安藤	0
6	吉見	FP	原井	1
0	洞ヶ瀬	FP	朝生	5
0	脇若	FP	角	2
3	森	FP	児玉	1
0	甲斐	FP	杉森	2
4	高木	FP	田川	1
8	西山	FP	武井	1
2	藤井	FP	田中	2
24	(0)	PT	(4)	15

（審・光島・新村）

○…パワフルな個人技の日新に対し、学生らしいはつらつとした筑波大はよくくい下がり、前半20分まで3点差の好ゲーム。その間両GKの美技があり湧いた。緊張感の切れたのは学生の方。ミスが

出たのに乗じて日新は一気に差を開く。後半に入っても、かさにかかる日新はパワフルな動きで加点し、対する筑波もコンビネーションで必死に頑張るものの日本リーグのしたたかさを見せつけられたゲームであった。

大同特殊鋼 27（12－10、15－9）18 滋賀クラブ

○…長短緩急自在を心得た大同の攻撃には滋賀は全く力負けして散発的な得点内容は鮮やかなものがあったが、善戦といえよう。

得	【大同】		【滋賀】	得
0	柳川	GK	石田	0
0	上村	GK	太田	0
4	田中	FP	位田	1
4	田口	FP	伊藤	2
1	柳川	FP	能波	3
5	大原	FP	井上	6
4	中本	FP	武田	1
4	浦田	FP	岩本	0
4	蒲生	FP	村崎	5
0	更谷	FP	林田	0
0	市川	FP		
1	花輪	FP		
(3) 27		PT		18 (3)

（審・斉藤、千野）

男子決勝戦。湧永・穂積のシュート（写真・読売新聞社提供）

▽準決勝

湧永製薬 18（1－0、0－0、4－9、13－8）17 鈴木本田技研

得	【本田】		【湧永】	得
0	大畑	GK	大城	0
0	中尾	GK	井藤	0
3	佐々木	FP	津川	1
4	三本松	FP	生駒	2
0	喜井	FP	穂積	5
0	豊岡	FP	藤本	0
1	長野	FP	志賀	1
1	玉井	FP	戸田	0
1	栗屋	FP	松本	3
3	猪野	FP	山本	6
1	坂本	FP	楢原	0
3	尾上	FP	池ノ上	0
(4) 17		PT		18 (2)

（審・新村、光島）

○…両チームGKの好守もあってゲームはひきしまった攻防戦となり、最後まで接戦となった。

ゲームは湧永が先行、それを本田が追いかけるという展開で前半を13－8と湧永リードで終了。後半になると湧永の攻撃がセンターに集まり攻めあぐみ、ミスを拾って本田の速攻が決まり出して21分には遂に15－15と同点。25分には16－16。そして28分に湧永にとっては痛恨の津川の退場。本田17－16で決勝点かと思わせたが、残り20秒湧永・山本のカットからの独走でついに延長戦となった。

この熱戦に終止符をうったのは湧永・松本のポスト。湧永GKの井藤の好守が光った。

大同特殊鋼 22（11－11、11－8）19 日新製鋼

得	【日新】		【大同】	得
0	西川	GK	柳川	0
0	三田	GK	上村	0
2	泉	FP	田中	0
2	徳田	FP	田口	3
3	吉見	FP	柳川	6
0	洞ケ瀬	FP	大原	2
0	脇若	FP	中本	1
0	日野	FP	浦田	3
2	森	FP	蒲生	6
1	高木	FP	更谷	0
9	西山	FP	花輪	1
0	藤井	FP	市川	0
(3) 19		PT		22 (3)

（審・斉藤、千野）

○…日新は、立ち上がり西山のロングシュート、フリースローからの得点で20分まで絶えずリードを保ったが、20分に大同は大原のサイドからの回り込んでのシュートで同点にし、蒲生のロング、速攻からの浦田のシュートと5点連取して初めてリードを奪った。

後半に入っても一進一退の試合がつづいたが、15分日新の吉見が肩を痛めて退場したのがひびき追い上げがならなかった。若い日新のはつらつとしたプレーが目立った。

▽決勝

湧永製薬 16（10－6、6－7）13 大同特殊鋼

得	【大同】		【湧永】	得
0	柳川	GK	大城	0
0	上村	GK	井藤	0
1	田中	FP	津川	1
1	田口	FP	生駒	7
3	柳川	FP	穂積	4
2	大原	FP	藤本	0
0	中本	FP	志賀	0
0	浦田	FP	戸田	0
5	蒲生	FP	松本	3
0	更谷	FP	山本	1
0	市川	FP	原田	0
1	花輪	FP	池ノ上	0
(1) 13		PT		16 (0)

（審・斉藤、千野）

○…蒲生がうてば生駒がうつ、雑踏の中をぬって、柳川、山本、松本が速射砲のごときシュートをうつ。

真に白熱の試合内容となったが、厚みと幅にまさる攻撃を見せる湧永が、生駒をよくうたせて終始安定を見せたのに反し大同は局部的な攻防場面にプレーヤーがかたまり過ぎてボールが散らず、湧永GK・井藤の好守もあって遂に及ばなかった。

女子

▽1回戦

立石電機 26（14－6、12－1）7 大阪体大

得	【立石】		【大体】	得
0	荒木	GK	竹山	0
0	栗山	GK	吉田	0
0	姫野	FP	塚田	2
1	桑原	FP	伊勢	1
6	木下	FP	大里	0
5	岩村	FP	小川	0
4	薮田	FP	筒井	1
2	喜久山	FP	望月	1
2	亀園	FP	池上	1
1	是枝	FP	松本	0
1	近藤	FP	森山	1
4	カーヤ	FP	藤田	0
(0) 26		PT		7 (0)

（審・北井、上久保）

○…日本リーグ1位に挑む学生4位の大体大、立ち上がりに攻撃ミスの目立つ立石であったが、さすがに守りはかたく大体大につけ入るスキを与えず得点を重ね、試合時間の経過とともに点差はひらくばかりであった。実力の差はいかんともしがたい大体大にあってGK竹山の度重なる攻守は非常に印象に残った。

北国銀行 24（12－3、12－10）13 滋賀クラブ

得	【北国】		【滋賀】	得
0	辻	GK	西村	0
1	大西	FP	藤本	2
8	八木	FP	金綱	5
1	木内	FP	西河	0
2	中田	FP	中西	0
2	竹	FP	丸	1
0	山崎	FP	松井	1
6	藤田	FP	藤本	0
4	丸山	FP	井上	4
0	小玉	FP	上田	0
		FP	内堀	0
(2) 24		PT		13 (1)

（審・島田、後藤）

○…きびきびとプレーする割に

は得点に結びつかずなかなか主導権をとれずに苦戦の北国に対し、のびのびと思い切りのよい攻撃でいどむ滋賀が健闘し15分過ぎには同点、その後、一進一退の好ゲーム。残り3分2点差をつけて北国のペースで前半終了。後半に入るや、前半のような思い切りの良いプレーが見られずミスの多くなった滋賀に対し、北国は速攻で加点し、10分過ぎには5点差をつけ、その後、時間の経過とともに差が開いた。北国の切れ味が今一歩というよりも滋賀の好ファイトが印象に残った。

日本ビクター 26（13－8, 13－8）16 筑波大

【日ビ】	得		【筑波】	得
渡辺	0	GK	久保	0
藤井	0		樽谷	0
岩城	2	FP	山口	1
村上	4	（審・光島 新村）	河原	4
志村	8		鈴木	5
中根	0		山田	0
高光	6		大地	1
門脇	0		池田	0
武藤	3		伊賀	0
池田	0		高木	3
長田	2		中田	2
染谷	1		茶川	0
(5)	26	PT	(6)	16

○…ビクターは立ち上がりロングシュートが決まらなかったが、5分過ぎビクター武藤のパスカットから速攻が決まり出しペースを取ったが、逆に武藤のもどりがないために筑波大のポストプレーが決まり出し前半15分以後は筑波大ペースで進んだ。後半に入っても筑波大のハツラツしたプレーが続いたが、要所で入れたビクター池田のディフェンスが、良くチームをまとめ筑波大の反撃をとめた。

ブラザー工業 24（10－3, 14－10）13 ムネカタ

【ムネ】	得		【ブラ】	得
清水	0	GK	畑添	0
岩瀬	0		大薮	0
広田	3	FP	杏原	0
岡部	3	（審・島田 後藤）	竹内	7
吉田	3		中村	3
小林	0		増永	3
石田成	1		植田	4
大河原	0		塩屋	3
佐藤	3		尾崎	4
水野	0		松下	0
石田江	0		小野島	0
藤谷	0		松岡	0
(1)	13	PT	(2)	24

○…攻守に一日の長のあるブラザーが追いすがるムネカタを一方的に突き離した一戦であった。敗れたムネカタは広田を中心によく攻めたものの、ブラザーの厚い壁にはばまれ得点も思うように入らず、遂にブラザーに速攻をかけられ自滅してしまった。

大崎電気 28（14－9, 14－10）19 東京重機

【大崎】	得		【重機】	得
梅野	0	GK	橋本	0
藤田	0		深瀬	0
西	2	FP	中本	9
陽田	2	（審・松尾 福田）	桜庭	0
宮嶋	3		呑村	0
石井	4		森田	0
渡部	6			
徳渕	2		沖山	3
時實	0		大前	2
嘉本	0		渡辺	4
李相	3		安田	1
李京	6			
(0)	28	PT	(0)	19

○…開始早々大崎の得点、それに対する東京重機は早いボール廻しにより大崎ディフェンスをかきみだし中本のシュートにより得点を重ねて前半14－9。後半は立ち上がりからジューキのペースにて展開、大崎は7分間ノーゴール、大崎のコンビがうまくかみ合わず個々の力が勝る大崎の勝利に終った。

日立栃木 28（14－10, 14－9）19 日体大

【日立】	得		【日体】	得
椿谷	0	GK	高倉	0
葛生	0			
吉田	4	FP	天野	4
水上	5	（審・島崎 井上）	国府	0
大輪	0		高橋	0
栗原	2		池内	2
西山	5		石原	2
手打	1		山本	3
前田	9		李	0
土屋	1		上嶋	0
清水	0		小口	3
山岸	1		吉岡	5
(6)	28	PT	(4)	19

○…日体大2点先制で試合は始まったが、日立は日体大のパスミスを捨っては得点をしてリードしてから動きも良くなり全員が動きが軽くなる。

日体大も良く頑張り点差をつめるが、あまりにもパスミスが多く、それがディフェンスにも現われてしまう、日体各プレーヤーのパスミスが点差として出てしまった。

大和銀行 18（9－7, 9－10）17 東女体大

【大和】	得		【東女】	得
松本	0	GK	中川	0
高浜	0		大坪	0
鈴木	1	FP	増子	3
若杉	8	（審・松尾 福田）	鈴木	6
千原	0		妹川	0
中川	0		内山	0
門	0		喜田	0
高橋	0		宮脇	2
秋成	4		小池	1
川添	2		田島	4
若水	2		二村	1
天谷	1		篠原	0
(1)	18	PT	(1)	17

○…両チーム共、前後半を通じて追いつ追われつのゲーム展開であり、後半25分東女体大が同点とし緊迫したが、残り5分大和銀行若水の左サイドからステップを使ってのシュートでリードする。東女体大も最後までがんばったが、惜しくももう一歩のところでパスミス、キャッチミスがあり惜敗した。

ジャスコ 34（17－3, 17－6）9 武庫川大

【ジャス】	得		【武庫】	得
矢部	0	GK	水谷	0
木村	0		三宅	0
辻本	6	FP	藤山	1
寺沢	10	（審・佐分 大塚）	富田	3
重村	1		梅木	2
横山	2		守行	1
松岡	1		神並	1
今里	1		前田	0
鷲野	3		西田	0
十丸	0		茂山	0
石田	8		岡山	1
仲田	2		仲	0
(9)	34	PT	(1)	9

○…試合が始まるとジャスコ辻本のアンダーシュートでゲットすると、15分迄立続けに速攻、セット攻撃で7－0と武庫川を鉄壁の守備とスピードある攻撃でまったく寄せ付けず14－3の大差で前半を終了。後半に入っても全てに一枚上の技術を持つジャスコは武庫川の攻撃、ディフェンスを物とせず実業団と学生との力の差をまざまざと見せたゲームであった。

▽2回戦

立石電機 26（14－6, 12－9）15 北国銀行

【立石】	得		【北国】	得
荒木	0	GK	辻	0
栗山	0			
姫野	2	FP	大西	0
木下	6	（審・島崎 井上）	八木	5
岩内	1		大内	1
薮田	5		中田	0
喜久山	2		竹	3
亀園	2		山崎	1
是枝	3		藤田	4
近藤	1		丸山	1
江口	2		小玉	0
カーヤ	2			
(2)	26	PT	(2)	15

○…立ち上がり両チーム共ミスが多く、盛り上がりの欠くゲームとなった。

地力に勝る立石は、ポストプレー、サイドアタックでペースをつかみ前半を14－6の差で折り返しゲームを決した。

北国も八木の強引とも思えるシュート等で時折反撃したが、攻めのパターンが単純で拙攻をくり返した感が強い。

ブラザー工業 19（12−4, 7−11）15 日本ビクター

得	【ブラ】		【日ビ】	得
0	畑添	GK	渡辺	0
0	大薮	GK	藤井	0
5	杏原	FP	染谷	0
3	竹内	FP	岩城	1
0	中村	FP	村上	3
2	増永	FP	志村	6
5	植田	FP	中根	0
1	塩屋	FP	高光	5
3	尾崎	FP	門脇	0
0	松下	FP	武藤	0
0	小野	FP	池田	0
0	松岡	FP	長田	0
19	(2)	PT（審・松尾、福田）	(4)	15

○…ツーポストを入れローリングからカットインをねらうビクターに対して、早い出足でつぶしにかかるブラザーは、相手のミスを上手にさそい、速攻を主体に加点又長身杏原のロングも要所をしめ12−4と大差で折り返した。後半ビクターのリターンからのカットインがブラザーのディフェンスミスをさそい、激しい追い上げを見せ2点差の白熱したゲームであったが、ブラザーの必要なねばりある攻守の前にビクターは惜敗した。

大崎電気 27（14−7, 13−11）18 日立栃木

得	【大崎】		【日立】	得
0	梅野	GK	椿谷	0
0	藤田	GK	葛生	0
6	西	FP	吉田	1
5	陽田	FP	水上	3
1	宮嶋	FP	大輪	0
2	石井	FP	栗原	0
2	渡部	FP	西山	5
2	徳渕	FP	手打	2
0	時實	FP	前田	5
0	嘉本	FP	土屋	0
1	李相	FP	大高	0
8	李京	FP	山岸	2
27	(2)	PT（審・島崎、井上）	(3)	18

○…立ち上がり大崎陽田のカットインプレーで連続2点ゲット、これで緊張が取れた大崎は5点迄日立を0点に押えてのゲットでゲームを有利に進め前半をダブルスコアのリードで終了。後半チームの両軸の李選手をはずしてゲームを展開するが、日立は9点差の劣勢をばん回出来ず結局総合力に勝る大崎が勝利をものにした。

ジャスコ 21（13−3, 8−11）14 大和銀行

得	【ジャス】		【大和】	得
0	天部	GK	春口	0
0	木村	GK	松本	0
5	辻本	FP	鈴木	2
6	寺沢	FP	若杉	2
7	重村	FP	千原	0
1	横山	FP	中川	0
0	松岡	FP	馬渡	2
1	今里	FP	高橋	0
0	鷲野	FP	秋成	1
0	石田	FP	川添	3
1	仲田	FP	若水	4
0	宮本	FP	天谷	0
24	(4)	PT（審・後藤、島田）	(2)	14

○…ジャスコ対大和の一戦は、前半立ち上がりに大和がうまい攻めを見せ再三チャンスが出来たが、ジャスコGKに好守されペースをとりもどしたジャスコは早い動きでボールを左右に振り、大和ディフェンスを広げうすくなった所を、スピードあるたての突進力にものをいわせ着々と得点を重ねた。一方、大和もその後、いい動きを見せるが時すでに遅くジャスコが大和を振り切った。

▽準決勝

立石電機 17（8−7, 9−9）16 ブラザー工業

得	【立石】		【ブラ】	得
0	荒木	GK	畑添	0
0	栗山	GK	大薮	0
0	姫野	FP	杏原	3
3	木下	FP	竹内	2
0	岩村	FP	中村	0
3	薮田	FP	増永	3
0	喜久山	FP	植田	6
0	亀園	FP	塩屋	1
1	是枝	FP	尾崎	1
0	近藤	FP	松下	0
6	江口	FP	小野島	0
4	カーヤ	FP	松岡	0
17	(5)	PT（審・上久保、北井）	(3)	16

○…立石木下のアンダーハンドシュートが見事に決って先制するも、ブラザーも全員で良く守り、立石カーヤのシュートミスをつき得点に結び好試合となる。前半ブラザーの三つの警告が後半にひびき退場者が続き苦しみながらも同点で最後までわからぬ試合となる。結局最後は立石ポストカーヤのポストシュートが決勝点となるがブラザーも十分勝利のチャンスがあったので残念だったろうが、特にブラザーGKの好守をたたえたい。

大崎電気 28（15−11, 13−12）23 ジャスコ

得	【大崎】		【ジャス】	得
0	梅野	GK	矢部	0
0	藤田	GK	木村	0
7	西	FP	辻本	2
1	陽田	FP	寺沢	10
0	宮嶋	FP	重村	1
1	石井	FP	若林	0
0	渡部	FP	横山	4
4	徳渕	FP	松岡	3
0	時實	FP	今里	1
0	大日	FP	鷲野	1
7	李相	FP	石田	0
8	李京	FP	仲田	1
28	(4)	PT（審・佐分、大塚）	(6)	23

○…大崎電気立ち上がり、先取点をとり追加点をしリードする。特に大崎電気の李相玉、李京姫のスピード、動きとテクニックがすばらしく中央より、およびサイドからのシュートが得点に結びつき、4点リードで前半を終える。後半、ジャスコは大崎電気のディフェンスの乱れをつき反撃し観衆をわかせたが、ジャスコの攻撃での動きが得点に結びつかず敗退した。両チームとも準決勝にふさわしい気合の入った好ゲームであった。

▽決勝

立石電機 16（6−5, 10−7）12 大崎電気

得	【立石】		【大崎】	得
0	荒木	GK	梅野	0
0	栗山	GK	藤田	0
0	姫野	FP	西	4
0	桑原	FP	陽田	1
4	木下	FP	宮嶋	0
0	岩村	FP	石井	1
5	薮田	FP	渡部	0
2	喜久山	FP	徳渕	4
0	是枝	FP	時實	0
0	近藤	FP	嘉本	0
2	江口	FP	李相	2
3	カーヤ	FP	李京	0
16	(3)	PT（審・上久保、北井）	(1)	12

○…両チーム共、立ち上がり動きがかたくミスの目立つゲーム展開でスタート、4分大崎李京姫が負傷退場し非常に苦しい立場に立った。立石も3本のPTミスで苦しみ前半1点差で終了。後半かたさのとれた大崎は、3連続得点し優位にたったと思ったが、14分から立石が大崎のミスをうまくつき4連取して一気に勝負を決した。大崎は李京姫の負傷欠場が勝敗に大きく影響し、動きが単調になり相手に逆にチャンスを与える結果になってしまった。立石の粘りと勝機をつかむ総合力が勝因となった。

女子決勝の立石電機対大崎電気
（写真・読売新聞社提供）

第2回日本リーグオールスター戦
男女とも西軍に凱歌

日本リーグの第二回オールスター戦が1月16日、東京駒沢体育館に約二千のファンを集めて行われ、男子は湧永製薬を中心とした西軍が26—22で、女子も立石電機を軸とした西軍が22—18で勝った。男子の通算成績は1勝1敗。女子は西軍の2勝となった。

◇男子

西軍 26（19—8 / 7—14）22 東軍

〔評〕勝敗の行く方は前半で決まったが、後半東軍の猛反撃にスタンドは多いに盛り上がった。

西軍は津川、穂積、山本のベテランのほか志賀、生駒ら昨年の全日本総合で四連勝した湧永製薬の選手が中核となり、これに昇り調子、日新製鋼の高木、大阪イーグルスの成瀬を加え強力たメンバー

一方の東軍は全日本総合では湧永に敗れたものの、日本リーグで五連覇を飾った大同特殊鋼の蒲生、柳川、大原らに本田技研鈴鹿、大崎電気の好選手をそろえた布陣。昨年は東軍が勝っており、試合今回はどんな展開となるか、試合前は予断を許さなかった。しかも東軍は前日集まって練習しており、西軍はぶっつけ本番。コンビネーションでは東軍やや有利かと見られた。

ところがいざふたを開けてみると西軍が一気に突っ走ってしまった。立ち上がり池ノ上のジャンプシュートで先行した西軍はその後も穂積、山本、高木の得点から10分までに5—1とリードを奪った。そして両チーム3点ずつを加え、8—4となった15分、両軍は大会の特別ルールで『1分間の作成タイム』を取り、メンバーをすっかり入れ替えた。

ここで気を吐いたのが昨年の総合で湧永優勝の立て役者となった生駒だ。交代するなり得意の高いジャンプ力からあっという間に得点。蒲生を下げた東軍にさらに点差をつけてしまった。さらに勢いに来る西軍は成瀬の巧シュートに津川の味のある得点を加えて前半で19—8と大量リードを奪って、安全圏へ入った。

得	【西軍】			【東軍】	得
0	本田（イーグ）	GK	GK	大畑（本田）	0
0	西川（日新）	GK	GK	岡部（大崎）	0
0	井藤（湧永）	FP	FP	上村（大同）	0
3	津川（湧永）	FP	FP	蒲生（大同）	5
2	穂積（湧永）	FP	FP	斎藤（大崎）	3
0	松本（湧永）	FP	FP	田口（大同）	1
2	山本（湧永）	FP	FP	長野（大崎）	1
4	生駒（湧永）	FP	FP	大原（大同）	4
2	池ノ上（湧永）	FP	FP	東江（大崎）	1
3	辻本（イーグ）	FP	FP	佐々木（本田）	3
3	洞ケ瀬（日新）	FP	FP	猪野（本田）	1
0	志賀（湧永）	FP	FP	柳川（大同）	0
4	成瀬（イーグ）	FP	FP	松岡（大崎）	1
1	藤井（日新）	FP	FP	田中（大同）	1
2	高木（日新）	FP	FP	中本（大同）	1
		（審・北井、上久保）	（3）		22

普通の試合だったら、後半にはもっと差が開くところだが、東軍の必死に巻き返しに後半は形勢が一転した。佐々木が巧みに西軍守備陣を破ったあと、東軍は大原の速攻、斎藤の強シュートなどから10分には20—15と5点差に迫り、13分には蒲生のPTから4点差とした。

しかし西軍はあわてなかった。ここで池ノ上、高木らが踏ん張りこれ以上西軍に点差を縮めさせない。また西軍がメンバーを全員入れ替えた後の17分、生駒が貴重な1点を加え、食い下がる東軍を再び突き離してしまった。

東軍は蒲生をフルタイム出場させて挽回を狙ったが、前半の点差はやはり大きすぎた。

それにしても勝った西軍にとっては、この試合の最優秀選手に選ばれた生駒の活躍が実に効果的だった。

○…初の最優秀選手に選ばれた西軍の生駒選手はトロフィーを手に会心の表情を浮かべる。

賞を受けるのは前回の敢闘賞以来だそうで、『うれしいですね』の言葉に実感がこもり、西軍、東軍選手からも祝福の声がかけられ、記念撮影ではテレ気味。

西軍の監督を務めた木野・湧永監督も〝直弟子〟の健闘にうれしそうで『昨年の全日本総合以来、生駒は調子に乗っている。いまはシュートを打てばほとんどが入るという感じだろうし、ハンドボールが一番楽しい時期ではないだろうか』と説明する。

これまで『やや一本調子で、安定感に欠ける面がある』といわれてきた生駒だが、このところの成長ぶりには関係者も目を見張っていた。

○…35歳の大ベテラン健在を見せたのが西軍のGKで先発出場した大阪イーグルスの本田。ミュンヘン、モントリオールの両オリンピックで日本のナショナルのを務め、現在は日本の強化スタッフの一員として若手の指導に当たっている。

派手さこそないが、相変わらずカンのいいプレーで西軍勝利に貢献した。

『もう若い人にはかなわないよ』と本人はひかえめだが、現役としての情熱がある限り、プレーを続けて欲しい選手だ。

◇女子

西軍 22（14—9 / 8—9）18 東軍

〔評〕西軍、立石電機の〝外人助っ人〟イレシュが帰国中で、また東軍、大崎電気のエース李京姫も風邪気味でベンチに下がったたまとあって試合は迫力に欠けた。

東軍は大崎、ブラザー工業、日

本ビクター、日立栃木の混成。一方の西軍は立石にジャスコ、大和銀行、北国銀行のメンバーを組み合わせたチーム。女子は男子以上にコンビネーションが要求されるところだが、両チームともパスのタイミングや、速攻の球出しが悪く、やはり選抜チームの弱点を出してしまった。

しかしそれでも目立ったのが西軍、木下の動きだ。前半1分先制シュートを西軍にもたらした木下は、その後も東軍の甘いディフェンスを突破して前半6得点の暴れぶり。この木下につられたように、ジャスコの中軸、寺沢も小気味のいいプレーを見せ4得点と張り切った。

試合は前半5分までは3—3と競り合ったが、5分すぎから地力の差が出始めた。

秋成のPTで勝ち越した西軍は東軍のミスにも助けられて20分までに11—5と6点差をつけた。

東軍は3分に植田が決めたあと18分に西がPTを取るまで15分間無得点。その間GK梅野のPTをはじめ11本のシュートを放ちながら一本も決められなかったのはあまりにお粗末。

前半で優位に立った西軍は後半も八木、寺沢らが着実に点を重ね、10分には木下が、その直後にも辻本がネットに突き刺した。後半15分で西軍は18—11とさらに点差をひろげた。

東軍は焦りもあってプレーが空回り。やっと東軍が志村の得点から息を吹き返すかに見られたが、なかなかあとが続かず、なんとか竹内、増永らの速攻から反撃し、後半を9—8と1点多く取っただけにとどまった。

それにしても、モントリオールオリンピック以来低迷している日本の女子を象徴するような見せ場の少ない試合内容。オールスターというハンディはあったにしろストーリングを取られたり、パスミスが続出。スタンドからも嘆息がもれていたのはなんとも印象的。日本の女子の奮起を期待したい。

○…『玄人にはプレーはもの足りなく、素人には楽しみの少ない試合』となったのが女子。オールスター戦で各チームの選抜というハンディは持つが、どう見ても玄人ろけのする味のあるプレーは出ない。苦しまぎれのスカイプレーも息が合わず、パスもいまひとつ。

スタンドを埋めたのが大半は中、高校生の若いファン。彼等にとっては先輩の日本リーグ勢のプレーを見習おうという気はあっても、選手たちがこれでは。

勝った西軍の井監督も険しい表情で『まだまだこれからですね』と反省。

(共同通信・小山敏昭)

【東軍】

	選手	所属	得
GK	梅野	(大崎)	0
GK	葛生	(日立)	0
FP	李相玉	(大崎)	1
FP	西	(大崎)	5
FP	李京姫	(大崎)	0
FP	陽田	(大崎)	1
FP	植田	(ブ工)	3
FP	杏原	(ブ工)	1
FP	徳渕	(大崎)	0
FP	志村	(日ビ)	2
FP	増永	(ブ工)	3
FP	竹内	(ブ工)	2
FP	高光	(日ビ)	0
FP	前田	(日立)	0
FP	武藤	(日ビ)	0
	(4)		18

【西軍】

得	選手	所属	
0	矢部	(ジャ)	GK
0	荒木	(立石)	GK
7	寺沢	(ジャ)	FP
1	横山	(ジャ)	FP
2	辻本	(ジャ)	FP
0	桑原	(立石)	FP
8	木下	(立石)	FP
1	八木	(北国)	FP
0	岩村	(立石)	FP
0	重村	(ジャ)	FP
1	松岡	(ジャ)	FP
1	藪田	(立石)	FP
1	秋成	(大和)	FP
0	中田	(北国)	FP
0	若水	(大和)	FP
22	(1)		

(審・斉藤・千野)

第7回日本リーグファン投票
Tシャツ当選者

※第7回日本リーグ期間中各会場でファン投票を行ない、その投票結果から1月16日の第2回日本リーグオールスター東西対抗戦が行なわれました。多数のファン投票の応募者に感謝すると共にここにTシャツの当選者を発表します。尚、Tシャツはこの発表と同時に発送致します。

〈当選者〉

▽熊本県
○中村さおり、西岡朋美、寺本ヒロミ(宇土市)、野田美智子(玉名郡)、増田智美(下益城郡)

▽兵庫県
○斎藤靖範、野村千恵、山本真美(西宮市)、川上孝幸(神戸市)

▽鳥取県
○松下順子、鈴木名奈(境港市)

▽愛知県
○衛藤由香、成田知美、高瀬真由美、寺沢直人、長谷川蔦子、加藤正之(名古屋市)、立松慶子、平野紀子、三井ゆかり(知多郡)、雲井桂子、榊原純子、池田聡子、犬伏純子、工藤ひかる(知多市)、鯉江浩子、吉川さとみ(常滑市)、村山みどり、岩附小夕里(岡崎市)、白井伸治(春日市)、中村麿艶、鈴木崇亮(東海市)

▽石川県
○天井崇、八百ともひで、若林一夫、市川悦子、山本晶、永野秀之、松本美和子、中田裕己、菅村重実、元地義之、庭田洋史(金沢市)、森高保(小松市)

▽広島県
○平原博司、松田和子、山内礼子、脇田一慶、山本宏美、石風朗、金子正信、出木良雄(呉市)、磯山久美子、三田順子(広島市)、佐伯信治(貝塚市)、新谷二三代(安芸郡)、小林友子(深安郡)

▽埼玉県
○亀谷裕一(朝霞市)、田中徳郎(川口市)、平井孝治、田中由美子(富士見市)、喜田和義、田中浩一(蓮田市)、藤間裕美(行田市)、新田悟(入間郡)、松崎勇(鳩ケ谷市)、清瀬美佐子(東松山市)

▽東京都
○丸山文夫、松野英三(大田区)、峯岸武司(葛飾区)宮脇直美(立川市)

▽神奈川県
○長谷川忠雄、松本博桂、岩村直志美(相模原市)、尾作健次郎、(川崎市)、塚本弘美(横浜市)

▽茨城県
○平林秀司、小菅利明、逆井浩子(岩井市)、山本知子(水海道市)

▽京都府
○村松由佳子、高田敏昌、入江真奈美、大西忠行、荒木和洋(京都市)

▽大阪府
○東真千子(門真市)矢野桂子(吹田市)高橋裕司、一ノ瀬浩子(岸和田市)佐伯信浩、水上良幸(貝塚市)外山玉子(堺市)西田裕美子、前田栄姫(大阪市)

▽兵庫県
○池田孝子、門野真由美(明石市)

▽栃木県
○岩田江利子、磯部恵子(栃木市)和気幸子、堤千絵、大島みはる、篠崎良子、上田桐子、小林和子、高野知子(下都賀郡)

▽三重県
○安田宏司、桜井裕、水谷美紀、藤田光子、高橋洋子、岡村むつみ、柘植尚美(四日市市)景山三佳(名古屋市)中井元美(津市)

▽富山県
○赤江由紀子、嶋秀之、山川直美(富山市)川上清志、屋宮真理(氷見市)

▽山梨県
○山口雅比古、渡辺浩、堀内英仁、菅沼修、勝俣博之(富士吉田市)小林ときえ、関戸博之(南都留郡)

▽岐阜県
○宮島由美子(安八郡)武藤郁代、井戸田佳子(岐阜市)鹿野真弓(大垣市)

▽香川県
○堀加賀、森宏康、石原通代、立山健、山本英津子、山田益実、三野由登、松本実千代(高松市)江崎仁美(大川郡)

▽新潟県
○井沢郁子(糸魚川市)

第9回アジア大会を戦い終えて

反省からチャンピオンの座奪還に

監督　竹野奉昭

選手選考の経緯と大会対策

昭和56年9月中旬、第10回世界選手権東アジア地区予選において、中国、韓国を連破して代表権を獲得した。本大会は昭和57年2月下旬〜3月上旬、西独で開催された。結果は、攻守の要である蒲生選手の失明寸前というアクシデントもあり、不本意な14位に甘んじるところとなった。

モスクワ五輪、第10回世界選手権を目標にレギュラーメンバーを固定し、強化を図ってきた方針も、世界選手権終了と同時に目標をアジア大会、ロサンゼルス五輪に切り換えを図った。

昭和57年4月には、若手中心にチームを構成、中国遠征を実施した。敵地へ乗り込んでの6戦4勝1敗1分と善戦〝若手に自信〟と大きな収獲を得た。

8月中旬、本田技研鈴鹿工場グラウンドで、アジア大会出場選手選考合宿を挙行。試合会場がデリー大学グラウンドであることを考慮し、暑さに耐える、コートに慣れるの2点を主眼とした。

昭和57年度全日本A、Bチームにノミネートされた34名から25名を選出。

○アジアでの国際試合経験歴を重視

○国際大会に通用する個人技術を有する者

○体格面で秀れている者

の3点に重点をおいて選考した。

GKは大畑、井藤の国際試合に豊富な経験を持つ2名と学生界の大型GK矢内。

FPは蒲生を軸に、生駒、池ノ上、志賀の大型ロングシューターおよびポストマンの4名に、現在ロングシューターとして成長著しい西山、将来性豊かな田口、猪野、高木を加えた。両サイド用員は、キャリア豊富な山本、斉藤に小兵ながら変幻自在のテクニックを持つ松井と左腕の長野、前回までの攻守の要でありキャプテンを務めたベテラン津川をコーチ的役割をも考慮して選出した。コーチ会議によるGK3名、FP14名を強化委員会および常務理事会の承認を得て決定した。

日本リーグ、国体などの国内大会が続き、全日本チームとしてのチーム作りには時間的に困難を極めた。しかし、新旧の切り換えをしたとはいえ、数年来の常連がメンバーの大半を占めていたことで、各種大会の日程の合間を利用、強化合宿を強行することが出来た。

日本がアジアでNo.1の座を持続し得ているのは、防禦力によることを再確認することと、攻撃におけるポストマンの養成を図った。当然のことながら、コンビネーションプレーの充実と基礎体力の向上に主眼をおいた。グラウンドにタラフレックスを敷いた試合コートというのは初体験であり、雨、汗、砂等とシューズの問題を配慮し、タラフレックスを取り寄せテストを繰り返した。9月中旬のJOCアジア大会事前調査団に加わり生活環境、競技施設等を実際に見聞したこと、各競技団体の方々と接する機会が多かったことなど、心の準備が出来、大変プラスであった。

アジア大会で初めて実施されることもあって、各国の技術、および審判の判定基準を研究すべく、VTRテレビ等を現地に持ち込み、平岡コーチが専門分析することとした。

現地のコンディショニング

選手団の第3陣でデリーに入った。平岡コーチが先発隊として練習会場の状況、選手の生活環境調査等、準備を整えてくれたことが大きくプラスした。国内での選手たちの情勢が冬期シーズンであったことと、試合、練習が屋内であったことから、デリー到着後2～3日は、暑さに慣れるべく、時間帯を考慮し、走り込むことによって体力保持を図った。特に個人技術の反復練習を重点的に、コンディション調整に配慮した。試合コートとなるタラフレックスのコートは、デリー大学の本会場とサブコートの二面のみで、その上アーチェリー会場と重なり、本会場での練習は出来なかった。唯一の練習コートも、タラフレックスが完全な状態で整備されていなかった。激しくストップ、ターンをすればタラフレックスがはがれる危険、ゴールポストは崩れる寸前、ゴールネットは不完全、ラインテープは不備、コート周囲は防壁がなく、満足に練習出来る状態ではなかった。練習のほとんどは空軍基地の芝生のグラウンドであった。

コンビネーションを特徴とする日本チームにとっては大変なマイナスであった。

試合時間が午前9時、午後2時と定められており、朝食、昼食の時間的配慮に頭を痛めた。コンディション作りに大変な苦労があった。試合会場と選手村との移動がバスで1時間、午前9時の試合には、5時30分起床、6時朝食、7時選手村出発、8時会場到着、9時試合開始、という点から、ウォーミングアップが大きなポイントになった。特に午後2時からの試合は、選手村の食堂が11時30分にオープンすることから昼食がとれず、各自、日本食の差し入れ等による昼食で会場へ出発することになった。バスによる移動も騒音が激しく心身のバランスを崩すことが多かった。試合の時間帯の関係から、日の出、日の入りの時、GKが直射を受けたこと、タラフレックスに反射して光によって、プレー面にマイナスを作った。目の下にスミを塗るなどの配慮を失したことだけが後悔となった。

一方、選手村での生活は、広い敷地、警備体制の充実により、水、食事を除けば快適であった。これまでの体験した大会では、各国選手の出発時間が同じで、トイレ、シャワーなどの点で気苦労が多かったが、今大会では各階にトイレ、シャワーがあり、混雑は避けられて楽だった。ただ水洗の水、シャワーの水の量の少なさには閉口した。この点にも疲労回復が充分であったとは思われない。

唯一の気分転換は、サッカーチーム、水球チームを応援に行くことであった。緊張感がほぐれ、他競技の選手たちと交流することによって連帯感を呼び、使命感を自覚が芽ばえたように思われる。

総評

初戦、対アラブ首長国連邦戦は、勝敗は別問題であった。著しく変化した環境でコンディション調整を考えての戦いであった。ベテランの津川、特殊技術の秘密兵器松井、長野をメンバーからはずし、若手にキャリアを積ませる意味も含めて戦いに臨んだ。攻防のバランスにおいても順調な戦いぶりであったし、個々の選手が特長を生かしたプレーで日本らしさを発揮した。

山本、蒲生はさすが、将来のエース西山が充分その真価を発揮した。ディフェンス面での失点19が不満。インド戦は前半30分には12―4もはやゲームとしては勝負があった。取ろうとすれば30点はおろか、35点位の得点は可能であった。しかし、ゲームとしては対アラブ戦の反省から、失点を少なくが成功して、満足のいくゲームであった。個々では、西山、生駒が、エース蒲生に続く国際選手に育ちつつあることを認識した。攻防の切り換えにもう少し緩急のアクセントをつけなければ、防禦の良い相手には苦戦を強いられそうである。インドがヨーロッパとの交流を深め、強化に本腰を入れるようだと、相当の力をつけるだろう。

対クウェート戦は過去一度、クウェートに苦杯をなめた経験がある。日本選手には劣等感はないものの、クウェート側にはあわやもう一矢、という意気込みがあった。チーム力に相当の差があるものの、闘争心、個々のもつパワーと強引なプレーが目立った。久しぶりの上位国の対戦で、立ち上がりこそ緊張感があったが、防禦力に勝る日本が余裕のある試合運びであった。

韓国戦は若さと脚力を生かした、攻撃の韓国と前半、立ち上がりから1点差を争う激しい試合であった。前日に中国戦で28対29で惜敗し、この決勝トーナメントの第1戦である日本戦に異常な執念を燃してきた。日本はディフェンスを引き気味して、次のディフェンスがロングシュートをカットする作戦であったが、直射日光をまともに受け、FPとGPのコンビネーションがかみ合わず、常に先手を取りながらも前半リードで終了。後半は、積極的なピストンディフェンスで前につめ、韓国の攻撃の動きを封じて2点差にはするが、3点のリードが出来ず苦戦する。韓国の必要以上の執念と、ポストマンの、つかむ、肘鉄等、粗暴な行範が数多くあった。しかし、第一関門を接戦の末とはいえ勝ち、いいムードで中国戦を迎えることができた。

中国戦は、恵まれた体格を利用した強引な個人プレーを主体とする中国であったが、ロングポストは、サイドと今までのパワーに、2人および3人の、コンビネーションの攻撃と防禦においても、ユーゴコーチ仕込みの、マンツーマンと、変則右45度のポジションを

〔個人得点記録〕

	11/23 UAE	11/25 WD	11/26 KUW	11/28 KOR	11/30 CHI	計
2 津川 昭	—	0	0	0	0	0
3 志賀 良弘	2	1	1	1	0	5
4 西山 清	8	6	1	2	5	22
5 高木 俊二	2	—	—	—	—	2
6 斉藤 幸司	3	5	4	1	0	13
7 山本 伸二	6	6	2	7	7	28
8 長野 透	—	—	—	1	0	1
9 松井 幸嗣	—	—	2	0	2	4
10 田口 勝利	0	0	0	—	—	0
11 蒲生 晴明	4	2	9	6	1	22
13 生駒 靖夫	3	5	5	1	2	16
14 池ノ上 孝司	6	0	1	2	2	11
15 猪野 栄一	1	1	—	—	—	2
1 矢内 浩	0	0	—	—	—	0
12 大畑 孝広	0	—	0	0	0	0
16 井藤 英忠	—	0	0	0	0	0
合計	35	26	25	21	19	126

封じるなど、組織的にディフェンスを敷くなど、日本に対する研究の跡がうかがえた。

日本チームこのアジア大会に、攻防のコンビネーションが、いまひとつかみ合ず単発的な動きが多い、1度も同点にすることが出来なかったことが敗因であり、初参加、初優勝のチャンスの大事な試合を落し残念である。

精神的な強化、個人技術の向上と原点に戻り次回を目指して頑張りたい。

競技の総評と反省

1977年（昭和52年）第1回のアジア選手権がクウェートで開催された。参加国は、日本、中国、韓国、サウジアラビア、パレスチナ、クウェート、アラブ首長国連邦、バーレーン、イラクの9カ国であった。

日本は、ヨーロッパに目を向けるのが早く、当時のアジアは、クウェートと中国が中心となって、アジア連盟が設立された。日本は、アジアでは出遅れた感があった。しかし、アジアにおける公式戦では常勝であり、今大会を迎えるまで、アジアの頂点に君臨してきたのである。

アジアのハンドボールは大別して、日本、クウェート、中国、韓国に分けて考えることが出来る。

クウェートとサウジアラビアを中心にアラブ諸国のハンドボール普及、強化は、異常なまでの力の入れ方である。各クラブチームには高価な報酬でヨーロッパ、特に東欧から、優秀な指導者を招いて、長期間にわたって強化を続けている。

中国は、近年、ヨーロッパとの交流を盛んにし、遠征、招待を繰り返して技術導入に懸命である。個人技術はすでにパワフルなものを備え著しい進歩を遂げている。また、役員、選手の切り換えが多く、やっとこの1年でメンバーの固定化に成功したようである。いかに底辺の大きさを感じさせる。昨年、ユーゴスラビアからコーチを招いて、戦術的にもヨーロッパスタイルを取り入れ、世界を目指す意気込みが感じられる。

韓国は1986年、1988年と、アジア大会、ソウルオリンピックのホスト国として高校生、若手に選手の切り換えの時期で、着々と準備が進められている。走るハンドボール、粘りのハンドボールを目指して強化に励み、軍隊に入隊させ、専門的な組織強化を図っている。

防禦技術面にはみるべきものはないが、攻撃面においては、スピードのある速い動きには目を見張るものがある。

男子ハンドボール界にあって、初めて日本の牙城が崩れた今、謙虚に反省しなければならぬだろう。しかし、技術面、精神面、戦術面では、決して劣っているわけではない。

まず、底辺にもう一度目を向け直し、素材の発掘を考えねばなければ、ジュニアの強化である。選手のレベルアップはいうまでもないが、今後、ヨーロッパの強豪と増々交流を積み、試合のキャリアを積ませる必要を強く感じる。試合のキャリアとは、技術、戦術はもとより、審判基準の違いをゲームを通じて体験させることである。

ヨーロッパの判定と、アジアの判定、そして、国内での判定が、テクニックの可否は別として、基準の統一化に目を向ける重要性を強く感じた。闘争競技として個々の選手の自覚を再教育することを反省の基として、必ずアジアのチャンピオンの座を奪還する。

くらし、ひろげるジャスコのカード
ファッションから食品まで
サインひとつでお買物――。
ご入会手続きも簡単です。お気軽にお申込みください。
会員募集中
お支払いもいろいろ
●月々のお支払いがラクな
リボルビング払い
●手数料なしのおトクな
一回払い
●お求めはいま、お支払いは
ボーナス一括払い
JUSCO CARD
1234-5678A-1234
58年08月末
●一部地域により取扱っていない
場合もございます。
お申し込み、お問い合せは、ジャスコ各店
サービスカウンター又は、販売員におたずねください。
ジャスコ

第9回アジア大会 ハンドボール競技総評

AHF理事長 シアド・アブル・ハッサン

ハンドボール競技が、アジア大会の歴史の中で初めてデリーにおける第9回アジア大会で行われた。はじめ10チームがエントリーしたが、結局、日本、中国、韓国アラブ首長国連邦、クウェート、サウジアラビア、バーレン、インドの8チームが大会に参加した。

ハンドボール競技は11月23日に始まり、11月29日一日を休息日とし11月30日に終了した。第1次ラウンドではリーグ戦方式が採られ各チームは同一グループの他のチームと戦い、準決勝以後はノックアウト方式がとられた。

試合は、午前と午後にデリー大学のタラフレックス屋外コートで行われた。競技場とスタジアムはハンドボールのための室内スタジアムがデリーになかったので、屋外コートが新しく作られた。

アジアハンドボール協会会長（H・E・シェイク・ファヒッド）は、アジア大会の副会長でもあったので、彼はアジア大会にハンドボールを含むよう強行することが出来た。これは彼の大きな業績である。彼はまた、クウェート政府の資金からタラフレックスコートの費用を支出するよう設備面でも影響力を行使した。

大会の運営は、第一義的にアジアハンドボール協会の責任でありアジアハンドボール協会は、第一副会長でもあるインドアマチュアハンドボール協会会長のモード・アリ氏、およびレフェリーの指名記録員、タイムキーパー、試合監督人の任命などを含む大会運営の技術面について共同して指導に当ったIHFPRC委員長カール・E・ワン氏の協力により進められた。アジアの国際Aレフェリーのサービスも活用され、大会はスムースに何の事故もなく進められた。

IHF会長ポール・ヘグベルグ氏および理事長マックス・リンケンバーガー氏もまた第9回アジア大会特別組織委員会のゲストとして大会期間中出席した。彼らは大会について好意的評価をしてくれた。

アジア大会で中国優勝決定の一瞬

ゲームの水準は、比較的に合理的なものであった。ハンドボールというスポーツは、ヨーロッパ諸国に比べアジア諸国ではまだ若い。中国、日本、韓国、クウェートという順位のチームは、熟練した高い技術水準のゲームを展開した。

インドの大衆および主催者にとっては、これら上位4チームによるスリルがあり、技術豊かなプレーを見ることは新しい経験であった。

AHF理事会議事録

一九八二年11月20日

AHF理事会は執行委員会に続いて開かれた。シェイク・ハヒッド・アルアーマッド・アルサバーが議長をつとめ、以下のメンバーが出席した。

第一副会長モード・アリ・アブル、理事長シアド・アブル・ハッサン、理事ファリッド・M・アジール、ホニール・H・ボルノ、Kワタナベ、フランシス・ホ、K・アラカワ。

①理事会は一九八二年4月8日にクウェートにおいて行われた前回理事会の議事録の確認により始められた。

②理事長より大会のため行われたアレンジメントを要約した報告が行われた。

執行委員会提案の⑴提訴委員会⑵技術委員会⑶懲戒委員会の構成を承認した。

③技術委員会委員長モード・アブル氏は、執行委員会で検討された取り決めの詳細について理事会に報告した。理事会はその取り決めを承認した。

④懲戒委員会委員長ファリッド・アジール氏は、自分の委員会は重複を避けるため技術委員会と合同することに同意する旨理事会に通知した。

彼は技術上の取り決め全般および懲戒上の事案がもし生じた場合は、その件を含めて取り扱うこととされた。

⑤総会議題を検討し、共通する議案は総会でまとめて取り扱うようにするという修正案を提案した。また、総会の承認の後質問書案に対する意見を各メンバーからもらうためその案を各メンバーに配るようにすることが提案された。

⑥次の通常総会が一九八四年オリンピック大会の時行われることを承認した。

⑦一九八三年に予定されている次のアジアハンドボール選手権大会の実施を承認した。

事務局が全加盟国に手紙を送りその大会の開催申し出を待つようにすることが指示された。

以上全ての議題を終り理事会は閉開した。

ＡＨＦ第４回通常総会議事録

一九八二年11月21日

ＡＨＦ第４回通常総会は、一九八二年11月21日、デリーのビグヤン・バハワンにおいて会長シェイク・ハヒッド・アル・アーマッド・アル・サバーの司会の下に開かれた。

この総会は出席率は良く、アラブ首長国連邦、韓国、サウジアラビア、シリア、日本、中国、イラク、パレスチナ、バーレン、パキスタン、インド、クウェート、ホンコンの13カ国から26名の代表が出席した。

総会の初めに、会長はすべての代表に歓迎の意を表わし、この総会への良好な出席状況は、加盟諸国の熱心な関心の表われであると強調した。この総会では、今後のアジアハンドボール協会の指導的役割を果すことになる重要な討論が行われ、アジア協会がさらに効果的に運営されることになるだろうとした。

総会議事

①前回の第３回通常総会（一九八一年４月12日・香港）の議事録は前もって配布されてあったが、議長により確認が求められ、加盟国の反対はなかった。

②理事長より一九八一年および一九八二年のアジアハンドボール協会の事業報告がされた。この報告で理事長は協会の仕事の顕著な点について報告した。また、この期間に国際レフェリー講習会がＡ級レフェリーの資格を獲得するためクウェートにおいて開催されたことを報告した。

その他重要な活動として、４つの委員会が極東諸国と連絡をとりハンドボール競技の開始、普及に努めたことを指摘した。そして、ＡＨＦの最も大きな業績は、第９回アジア大会に初めてハンドボール競技を採用した会長シェイク・ハヒッド・アーマッド・アルサバーの手腕と努力であると指摘した。アジア大会ではＡＨＦの中国、日本、韓国、サウジアラビア、バーレン、アラブ首長国連邦、インド、クウェートの８カ国がエントリーした大会を初めて円滑に開催できた。アジアハンドボール協会は、大会のハンドボールコートにタラフレックスを敷いたり、協会を運営する資金をふんだんに供給し、アジアの青年のための利益をはかったクウェート政府に対し感謝の意を表明した。

理事長は、最後に会長シェイク・ハヒッド・アル・アーマッド・アルサバーのアジアハンドボール協会に対する援助を強調すると共に、シェイク・ハヒッドがＩＯＣのメンバーに選ばれたことを報告した。このことはアジアハンドボール協会の大きな名誉であり、最初の国際組織のメンバーとしてその地位を主張できるようになったと報告し、その栄誉と責任はアジアハンドボール協会も共に分つことになると結んだ。

③ＡＨＦ会計ファリード・アジール氏は、総会に協会財務の詳細を報告した。彼は一九八〇年と八一年の会計状況を簡単に報告した。

④議題の主要なものは加盟国協会により提出された提案であった。サウジアラビアが二つ、インド四つ、クウェート、韓国が三つの提案があり、同様提案は一緒に取り扱われた。

討論の最初に会長は、ＡＨＦはアジアハンドボール選手権大会にベストを尽しており、この大会は３年毎にのみ可能であるといった。イラクは国が直面している困難のため一九八一年大会を開催できなかった。そして、この大会の代りに一九八二年Ａｓｔａｂｓアジア大会が行われた。彼はまだこれからハンドボールを始めなければならないアジアの多くの国があり、それが完成した後女子ハンドボールに目を向けることができると述べた。同様のことは加盟国から提出されたジュニア大会についてもいえるとした。

次にインド代表カプール氏より提案された〝広報〟の提案は採択された。会長は将来四半期毎の「ニュース・レター」を発行することを総会に保証した。

⑤次の総会を一九八四年ロサンゼルスで行われるオリンピック大会の時行うことに総会は同意、必要な措置は事務局により取られることとした。

⑥一九八三年に行われることになっている次のアジアハンドボール選手権大会開催に関する件、韓国のキム氏は、彼らが大会を開催する意志があると申し出た。ボルノ氏は決定は関係国メンバーにしかるべき相談をした後行われるべきであるという意見を述べ、会長は決定は行わないで全ての加盟国に照会した後行うことに賛成した。

以上議事終了。

（一九八二年12月15日付・理事長アブル・ハッサン氏よりの手紙を要約した）

●日体大ルーマニア遠征記●

ハンドボールの本場に大いに学ぶ

北川　勇　喜

▽9月3日

この夜21時30分、ルーマニアの招聘を受けて成田を出発、アンカレッジ、ハンブルグ、ミュンヘンを経て、ハンドボールのメッカである憧れのルーマニアに到着した。

肌寒かったドイツとは違いブカレストは雨上りで蒸暑くその上、税関を通過するのに一時間以上もかかり、せっかちなわれわれをいらいらさせた印象の悪い第一歩だった。

しかし、出迎えに来てくれたズングリ、モックリ、ギョロメのネデフさん（ルーマニアナショナルチームの監督、S43年来日）通訳のダーナーさん（妹が三菱商事に勤務）共に親日家の暖かい歓迎ぶりは、体制の冷たさとは違いラテン系の陽気で親切な面に触れてホッとした感じであった。

空港からホテルまでは、15、6分の距離であったが、想像した以上に緑が多く、その中を走る車のほとんどが中古車ということがとくに印象に残った。

宿泊および食事については、経済状況、食糧事情等から、ある程度の覚悟をしていたが、以外にも閑静な中級のホテル、食事は近くにあるスポーツセンター（水泳、テニス、フェンシング、体操ジュニア専門の体育館）の食堂で、内容は、ナショナルプレーヤーが合宿中に摂取する高カロリーのメニューだった。

到着後直ちにネデフさんとスケジュールの打ち合せをしたが、出発前われわれが要望した点を充分組み込んだ綿密周到なスケジュール表を見て、さすが世界有数の監督は違うなと感心をした。

▽9月4日

午後4時半スローオフの待望の第一戦、立ち上がりから前半終了まで、時差ボケの影響、長旅の疲れ、チームとして始めての海外試合の緊張感が重なり合って元気が無く、しかもミスが続発して17対13で先行される。しかし、一汗かいた後半は見違えるような溌剌としたプレーで挽回し、終了直前鮮やかな速攻からのシュートがゴールを割って劇的な逆転勝ちで第一戦を飾った。

▽9月5日

朝食後ショッピングでデパートに出かけた。この日は日曜日で、店内は人で賑わっていたが、多いのは人々だけで陳列の品数は少なく、しかも品質は日本とは比べ物にならない位の粗悪さであり、特に家電商品等は、20年前の洗濯、冷蔵、テレビのようだった。

ところで、ここではヤミドル交換人のコールがうるさく、行く先々で声をかけられ、その度にレートが上って最後は55レイまでつり上げての催促だった。（正規のレートは1ドル11レイ）

ショッピング後、女子ナショナルと男子ジュニアナショナル、女子リーグ一部上位同士の2試合を観戦したが、日本では見られない異質なカードに興味を持った。

午後、男子2部上位の対戦を見学した。この一方のチームは、自動車メーカーのクラブチームであり、22年前１９６０年に来日した時のルーマニアナショナルチームのゲームメーカーであったコスタケ選手が監督として采配をふるっていたので、全員で日体式の応援をした結果、これに応えて接戦の末、勝利を収めた。一方敗れたチームの監督は、美しい中年の女性であったが、ゲーム終了後、コスタケ監督が差し出す手に顔をそむけて握手したのには驚いた。負けて涙ぐむ優さしい日本女性、ツッポを向く気の強いヨーロッパ女性、女性の質の違いを、かいま見た感じであった。

▽9月6日

午前、大使館を訪問し、書記官から食糧事情が悪く、特に牛肉はほとんど一般人の手に入らないことを聞くとともに、われわれが受けている特遇は、この国では最良のものであることを知り、関係者

に深く感謝せずにはいられなかった。

夕方5時から第2戦、相手が大学の単独チームであり、技術的には差が無く組み易い相手だったが、日本チームが外国チームと対戦した場合、共通の弱点である。体格を生かしたロングとポストを巧みに併用した攻撃、戦法を守り切れず、攻めては、高い防御壁に戸迷いを感じてただ壁の外を動き廻るのみ。しかも壁に遮ぎられてパスのタイミングおよびコースを乱してミスの連続、シュートも、ぎりぎりの不利な態勢からのシュートの後にGKに軽くクリアーされて得点出来ず、結局勝てそうで勝てないゲームの結果であった。

▽9月7日

ルーマニアNo.1チーム、クラブチームではおそらく世界で3本の指に入る強豪のステアーチームと対戦した。

世界選手権得点王スティンガーと

前半捨て身で臨んだ日体大が、120%の力を発揮した見事な奇襲攻撃にステアーはたじたじで1点を争う好ゲーム。しかもあわやと期待に小躍らせる1点のリードで前半を終えた。

しかし、後半を迎えた彼等の攻防は物凄いの一言に尽きるような展開だった。とくに前半セーブしていて目立たなかったルーマニアのエース・スティンガー（西ドイツで開催された前回の世界選手権大会の得点王）を中心としたパワフルな速攻、2次攻撃（中盤の展開が中心）、セットオフェンスと目を見張る多種多彩な攻撃で押し寄せて来た。まるで津波のような破壊力だった。

特にスティンガーの個人技は凄さを越えて物凄いとの印象を受けた。なにしろ50mを6秒切るスピード、三段跳で13mを越えるバネ、驚いたことに3歩ステップでなんと73m投げる（いずれもネデフさんの体力評）というのだから、まるで陸上選手の5種か10種競技の一流選手の運動能力を有しているわけである。

因みにプレー上では、1対1になればスピードかフェイントで必ず抜かれたし、12・3mからのロングシュート数本に対しGKが一回もボールに触れなかったどころか、動けず瞬く間にやられる程のスピードとコントロールがあるのだからかなわない。

左から一宮, クント, 北川, ネデフ各氏

ネデフさんの話では、攻撃力の全てを兼ね備えた選手であり、ルーマニアハンドボール界が生んだ最高のプレーヤーとの激賞だったが、この選手とプレーさせ、この選手の素晴しい個人技を目の当りに見ただけでもルーマニアに来た甲斐があったと思える程の凄い選手だった。

ゲームの結果は、前半16対17、後半9対27のバスケットカウントの惨敗だった。

▽9月8日

午前中、ネデフさんのコーチを受けた。ネデフさんは、練習および戦のゲーム分析から日体大チームはディフェンス面の強化を図ることが先決であり、具体的には1対1の防御力を高める練習法、次に連係プレーの基本であるフォローディフェンス力を高める方法についてのコーチングを受けた。

攻撃面では、3段階、4段階の攻撃方法であるコンビネーションプレー、フォーメーションプレーの攻撃を高めるべきであり、このプレーの組立てのポイントは、ポストプレー、サイドプレーを主体としたチームプレーを築きあげることがこれからのチームづくりの課題であろうとの指摘を受けた。

最後に、日体大の選手全体および日本の選手全体にいえることは、技力の弱さである。したがって、技力を強化させるためのトレーニング法を編み出すことが日本のハンドボール界にとって最も重要な課題であろう。私は、43年に訪日した時、大崎電気の女子の投力トレーニング法の一つに、毎日13mスローを練習の中に取り入れて充分効果が上ったが、これ等も良い方法の一つだと思うし、陸上の投てきのトレーニング方法等も採用してみたらどうかとの重要なアドバイスをいただいた。日本のハンドボール界全体が耳を傾けなければならない価値のあるアドバイスである。

夕方5時から第4戦、ネデフさんのコーチングが功を奏したかのような展開で快勝した。ネデフさんも、してやったりと御満悦の体であった。

▽9月9日

今日からは、ブカレストから860km離れたバイヤマーレという、ソ連、ブルガリアに近いハンドボールが最も盛んな町での合宿である。

夜1部リーグの2位地元ミナワチームと日本にお馴染みの警察官チームのディナモ（3位）との公式リーグ試合を観戦したが、驚いたことに4000人収容のスタンドは、立錐の余地もない程の超満員、それどころか、外には2千人以上が入場出来ないという盛況ぶりを現実に見て、なるほどとルーマニアの強さの一端に触れた思いだった。

ゲームの内容は、予想通り1点を追う白熱戦になり、プレーの一つ一つが、まさしく勝利に執念を燃やした男と男のぶつかり合いといった熾烈な戦いだった。特に後半の中盤以降は、ミナワが1回、ディナモが2回計3度も2人の退場者を出しFP4人で戦い抜いた場面は、日本では考えられないすさまじいものであった。

更に心に残ったことは、地元チームの物凄い応援とプレーヤーの一体感である。特に終盤は入場者全員が立ち上がり、あるグループは肩を組み、あるグループは手を振り上げて、チーム名である、ミナワ、ミナワの大合唱、これに呼応して燃えるような選手のハッスルプレーこれこそチームスポーツの真髄であり、ハンドボールの魅力だと感じさせられた。

第8回世界女子選手権

ソ連が初優勝

＜韓国決勝リーグに進出を果たす＞

第8回世界女子選手権大会は、12月2日から12日までハンガリーが12カ国が参加して行なわれた。今大会は、3位までがロサンゼルス・オリンピックの出場権を得られるということで各国とも予選リーグから激しい試合を展開したがソ連が激戦を制して初優勝を飾った。また、アジア代表の韓国は、強豪ヨーロッパ勢を相手に善戦健闘、見事決勝リーグ進出を果たした。

▽予選リーグA組

ハンガリー 22（7－3 15－1）4 アメリカ
東ドイツ 16（8－8 8－6）14 ノルウェー
ハンガリー 24（9－9 15－9）18 ノルウェー
東ドイツ 24（14－2 10－4）6 アメリカ
ノルウェー 25（14－8 11－5）13 アメリカ
ハンガリー 17（10－9 7－8）17 東ドイツ

（順位）①ハンガリー、東ドイツ2勝1分③ノルウェー1勝2敗③アメリカ3敗

▽予選リーグB組

韓国 22（12－11 10－11）22 ルーマニア
ソ連 22（9－7 13－5）12 ブルガリア
ソ連 23（13－11 10－10）21 韓国
ルーマニア 18（12－8 6－9）17 ブルガリア
韓国 26（12－12 14－11）23 韓国
ソ連 20（10－11 10－5）16 ルーマニア

（順位）①ソ連3勝②韓国1勝1分1敗（得失点差プラス1）③ルーマニア1勝1分1敗（得失点差マイナス3）④ブルガリア3敗

▽予選リーグC組

チェコ 30（19－8 11－5）13 コンゴ
ユーゴ 21（9－8 12－8）16 西ドイツ
ユーゴ 27（20－7 7－4）11 コンゴ
チェコ 18（8－7 10－10）17 西ドイツ
西ドイツ 32（19－6 13－4）10 コンゴ
ユーゴ 22（11－9 11－7）16 チェコ

（順位）①ユーゴ3勝②チェコ2勝1敗③西ドイツ1勝2敗④コンゴ3敗

▽7～12位決定リーグ

ルーマニア 35（17－6 18－9）15 アメリカ
ノルウェー 28（15－7 13－7）14 コンゴ
西ドイツ 18（9－7 9－8）15 ブルガリア
ノルウェー 22（12－12 10－7）19 ブルガリア
アメリカ 19（10－9 9－7）16 コンゴ
ルーマニア 18（9－11 9－7）18 西ドイツ
ブルガリア 19（7－8 12－7）15 アメリカ
ルーマニア 35（19－7 16－7）14 コンゴ
ノルウェー 18（8－9 10－6）15 西ドイツ
ノルウェー 16（8－8 8－8）16 ルーマニア
ブルガリア 31（18－11 13－9）20 コンゴ
西ドイツ 27（13－6 14－8）14 アメリカ

（順位）⑦ノルウェー4勝1分⑧ルーマニア3勝2分⑨西ドイツ3勝1分1敗⑩ブルガリア2勝3敗⑪アメリカ1勝4敗⑫コンゴ5敗

▽決勝リーグ

ソ連 15（9－6 6－8）14 東ドイツ
ユーゴ 27（11－11 16－14）25 韓国
ハンガリー 20（9－10 11－7）17 チェコ
東ドイツ 23（9－11 14－7）18 チェコ
ソ連 21（11－11 10－8）19 ユーゴ
ハンガリー 31（13－13 18－12）25 韓国
東ドイツ 28（14－10 14－12）22 韓国
ソ連 14（5－6 9－6）12 チェコ
ユーゴ 17（7－7 10－9）16 ハンガリー
チェコ 20（7－11 13－8）19 韓国
ユーゴ 17（12－8 5－9）17 東ドイツ

（順位）①ソ連4勝1敗②ハンガリー3勝1分1敗（得失点差プラス10）③ユーゴ3勝1分1敗（得失点差プラス7）④東ドイツ2勝2分1敗⑤チェコ1勝4敗⑥韓国5敗

※予選リーグの対戦も含む

新しい年の財政財源について

清水　正

一九八三年の幕明けと共に各競技種目団体共に、ロサンゼルス・オリンピック大会を目指して、活発な動きをみせはじめてきた。わが協会も本年行なわれる男・女のオリンピックアジア予選、女子の三大陸予選をはじめ男・女の第4回ジュニア世界選手権大会に加え、男子のロサンゼルス国際トーナメント（プレオリンピック）と数多くの国際試合に追われる年明けとなった。

最近のアジア地区の著るしい進歩は、昨年末のアジア大会の結果が如実に示す如く、日本にとって苦しい至難の道であり、オリンピック大会出場を第一の目標とし、総力を結集して努力する年の始まりでもある。

協会の財政の現況は、一般会計では別表の、昭和58年度予算編成概要の如く総額六二、一八〇、〇〇〇で編成され、この外特別会計として、日本体育協会の委託事業の全日本男・女の欧州遠征・第4回ジュニア世界選手権アジア予選・本大会（男・女）・ジュニア研修合宿（Ⅰ）・（Ⅱ）として、五七、四八四、〇〇〇。補助事業として、強化コーチ巡回指導、スポーツ傷害保険。スポーツ医科学研究として、二、二六〇、〇〇〇。また、協会単独事業として、ロサンゼルス・オリンピック大会アジア予選（男・女）。同三大陸予選（女子）。ロサンゼルス国際トーナメント（男子）、高校生強化合宿、機関誌発行事業、物品販売事業として、五二、九〇〇、〇〇〇の総額一七四、八二四、四八〇が計上され、2月開催される全国評議員会、理事会において審議決定されることになっている。

これに必要な財源は、負担金、

昭和58年度予算編成概要（案）

一般会計（収入の部）

（単位　円）

科　目	昭和57年度予算	昭和58年度予算	備　考
1 負担金	2,850,000	4,350,000	加盟金，日本リーグ負担金
2 補助金	3,885,000	3,825,000	日体協補助金
3 事業収入	28,780,000	17,540,000	
イ 登録金	9,670,000	10,000,000	
ロ 検定審査料	5,400,000	5,400,000	
ハ 開催権料	2,710,000	2,140,000	
ニ 機関誌購読料	11,000,000	—	昭和58年度11,000,000は特別会計へ
4 寄付金	6,000,000	16,575,000	
イ OLPC基金	1,000,000	1,000,000	
ロ その他の寄付	5,000,000	15,575,000	
5 預金利子	3,000,000	4,000,000	
6 特別会計から繰入	1,520,200	5,890,000	
7 繰越金	14,294,292	10,000,000	
収入合計	60,329,492	62,180,000	

補助金、委託金、事業収入、預金利子（財団基本財産）、広告料（機関誌）、寄付金、その他等でまかなうことになるが、現状勢下においては、

①業務の多様化

②各種行事の拡大（特に国際関係）

③補助、委託事業の増加

④選手強化活動の活発化等の必要経費が増大され、収入財源と支出とのバランスがともすれば乱れがちになっており、事業・運営に見合う定常財源の確保が強く望まれている。

定常財源の確保については、

①加盟、登録金（チーム数の増加）。

②賛助金（寄付金）。

③広告料（機関誌）。

④事業収入の増加。

⑤基本財産の増額（利子の増加）

等が考えられると共に、経費の節約、諸行事の精選等もまた重要なことがらとなってくるわけである。

特に58年度の一般会計収入予算のうち寄付金が一六、五七五、〇〇〇計上されており、これは従来のオリンピック基金一、〇〇〇、〇〇〇に一般寄付金一五、五七五、〇〇〇の内訳で、このことについては昨年12月13日顧問、参与、オーナー、加盟団体長会議が開催され、定常財源確保について懇談が行なわれた。

その結果のまとめとして、斉藤会長が財源の確保についてはまず自分達の手で、関係者の協力を得て必要財源を確保するための創意工夫と努力を払うことが第一であり、全員で努力しようと提案し、参加者全員の賛同を得ましたので、新年度より財源プロジェクトチームが中心となり活動することが確認されました。

昭和58年度予算案作成については、各部より提出された事業計画について常務理事会で重点目標として、ロサンゼルス・オリンピック大会出場を挙げ、現状より検討し、最大限の収入財源を基盤とし作成されたため、従来国内で行なわれていた諸行事が予算的に圧縮された形になったが、それぞれの部門においてこれを最大限に活用し効果を挙げることを期待するものである。

おわりに本協会が財団化されてより2年を経過し、財団設立の寄付金の合計は五一、六六一、〇〇〇となっているが、現在未納が各府・県で七、六六〇、〇〇〇、加盟団体六九〇、〇〇〇、合計八、三五〇、〇〇〇となっており、各府、県、団体のそれぞれの事情はあると思うが、基本財産の増加は、定常収入の重要な財源となっているので、是非本年中になんとか完納されるようお願いします。

一般会計（支出の部）

（単位　円）

科　　目	昭和57年度予算	昭和58年度予算	備　　考
1 加盟金	660,000	660,000	1F・AF・日体協加盟金・年会費
2 事務費	23,893,000	24,730,000	
イ 人件費	9,843,000	10,800,000	各種保険料を含む。
ロ 運営諸費	7,480,000	7.880,000	通信運搬費，借損料，消耗品費等
ハ 旅費	4,020,000	3,300,000	1F・AF総会，評議員会，理事会
ニ 渉外費	1,000,000	1,000,000	
ホ 保険料	150,000	150,000	
ヘ 賞盃費	800,000	1,000,000	
ト 雑費	600,000	600,000	
3 団体補助・大会費	4,380,000	4,880,000	
4 普及関係事業費	4,090,000	2,890,000	
5 審判関係事業費	2,166,000	2,660,000	
6 競技力向上事業費	4,600,000	6,600,000	
7 特別会計へ繰入	670,000	8,760,000	
8 予備費	5,980,492	11,000.000	
支出合計	60,329,492	62,180,000	

各地の記録

◆神奈川県高校新人大会

（10月24、31日、11月7、14、21日）

＜男子＞

▽1回戦

- 川崎北 17—14 横浜南
- 川崎市工 15—10 光陵
- 藤沢西 14—10 柏陽
- 大清水 キケン 伊勢原
- 富岡 21—6 五領ケ台
- 七里ケ浜 12—3 神奈川工
- 希望ケ丘 16—12 鶴嶺
- 横浜東 18—10 桜丘
- 県鎌倉 22—16 城山
- 松陽 キケン 湘南通
- 瀬谷 17—11 県川崎

▽2回戦

- 横浜商工 16—13 川崎北
- 逗子 キケン 生田東
- 港北 10—8 鎌倉学園
- 川崎市工 15—5 柿生
- 百合ケ丘 28—5 鶴見
- 相武台 11—10 神田
- 西湘 16—12 上溝南
- 生田 16—14 藤沢西
- 大清水 14—10 慶応
- 大和 17—13 科学技
- 相模台工 22—4 相工大附
- 金井 16—10 県商工
- 桐蔭 16—12 富岡
- 関東学 13—5 立野
- 新城 6—5 厚木東
- 和泉 15—8 七里ケ浜
- 川和 11—4 希望ケ丘
- 湘南 10—9 座間
- 桐光学 10—6 大和南
- 日野 19—12 茅ケ崎北陵
- 磯子 キケン 霧ケ丘
- 上鶴間 17—4 麻溝台
- 秦野 キケン 磯子工
- 法政二 27—7 横浜東
- 県鎌倉 23—9 横浜商大
- 横須賀学 14—11 三浦
- 平塚江南 14—4 綾瀬
- 翠嵐 16—14 県相模原
- 清水ケ丘 11—10 松陽
- 橋本 12—10 藤沢北
- 戸塚 12—11 大沢
- 多摩 23—10 瀬谷

▽3回戦

- 横浜商工 33—4 逗子
- 川崎市工 27—3 港北
- 百合ケ丘 21—4 相武台
- 生田 20—7 西湘
- 大清水 13—12 大和
- 金井 14—8 相模台工
- 桐蔭 10—5 関東学
- 新城 13—11 和泉
- 川和 15—7 湘南
- 日野 9—6 桐光学
- 法政二 17—5 秦野
- 県鎌倉 15—0 横須賀学
- 翠嵐 5—2 平塚江南
- 清水ケ丘 13—12 橋本
- 多摩 キケン 戸塚
- 上鶴間 キケン 磯子

▽4回戦

- 横浜商工 28—10 川崎市工
- 生田 25—9 百合ケ丘
- 大清水 15—14 金井
- 桐蔭 14—5 新城
- 川和 21—12 日野
- 法政二 23—10 上鶴間
- 翠嵐 15—10 県鎌倉
- 多摩 29—10 清水ケ丘

▽準々決勝

- 横浜商工 25—13 生田
- 桐蔭 21—10 大清水
- 法政二 18—8 川和
- 多摩 18—15 翠嵐

▽準決勝

- 横浜商工 23（12—8、11—6）14 桐蔭
- 法政二 22（13—5、9—8）13 多摩

▽決勝

- 横浜商工 20（11—8、9—11）19 法政二

＜女子＞

▽1回戦

- 川和 15—2 秦野
- 五領ケ台 11—9 大沢
- 横浜南 7—5 北鎌倉
- 橋本 キケン 霧ケ丘
- 川崎北 12—5 翠嵐
- 多摩 12—5 藤沢北
- 明倫 15—9 上溝南
- 磯子 9—5 七里ケ浜
- 横須賀大津 6—3 市川崎
- 桜丘 14—8 鶴嶺
- 上鶴間 キケン 鶴見
- 座間 11—5 大和
- 厚木東 9—5 横須賀学
- 高浜 12—6 麻溝台
- 富岡 11—3 高木女
- 大和南 14—7 立野
- 茅ケ崎北陵 10—3 厚木商
- 城山 13—4 瀬谷
- 戸塚 20—3 港北
- 横浜東 5—3 平塚江南
- 藤沢西 8—6 百合ケ丘
- 生田 キケン 新城
- 県商工 22—11 清水ケ丘
- 生田東 16—8 日野
- 県川崎 6—4 希望ケ丘
- 高津 30—7 岡津
- 綾瀬 10—9 松陽

▽2回戦

- 成美 13—8 川和
- 横浜南 10—9 五領ケ台
- 川崎北 14—6 橋本
- 明倫 14—6 多摩
- 磯子 7—6 逗子
- 桜丘 14—5 横須賀大津
- 上鶴間 16—8 座間
- 金井 21—1 厚木東
- 和泉 19—4 高浜
- 富岡 12—6 大和南
- 城山 14—7 茅ケ崎北陵
- 戸塚 8—5 横浜東
- 生田 9—3 藤沢西
- 生田東 16—13 県商工
- 高津 20—11 県川崎
- 相模原 16—8 綾瀬

▽3回戦

- 成美 33—3 横浜南
- 明倫 16—10 川崎北
- 桜丘 キケン 磯子
- 金井 26—4 上鶴間
- 和泉 11—6 富岡
- 城山 9—4 戸塚
- 生田 7—6 生田東
- 高津 15—2 相模原

▽準々決勝

- 成美 14—9 明倫
- 金井 17—6 桜丘
- 和泉 12—8 城山
- 高津 12—4 生田

▽準決勝

- 成美 12（4—5、8—6）11 金井
- 高津 12（5—1、7—8）9 和泉

▽決勝

- 高津 19（10—5、9—13）18 成美

◆三重県高校秋季大会

（11月21、23、28日）

＜男子＞

▽1回戦

- 津工 19—10 四日市中央工

▽2回戦

- 亀山 16—11 桑名工
- 四日市西 25—3 朝明
- 四日市南 15—13 四日市
- 桑名 46—4 桑名北
- 尾鷲 18—13 桑名西
- 日生第二 37—10 高田
- 海星 22—6 津
- 四日市工 22—8 津工

▽3回戦

- 四日市工 25—6 亀山
- 尾鷲 18—14 四日市西

日生第二 23—23 四日市南
3PTC1
桑名 25—7 海星

▽準決勝
四日市工 23（14—5、9—4）9 尾鷲
桑名 26（12—7、14—6）13 日生第二

▽決勝
四日市工 25（14—9、11—8）17 桑名

〈女子〉

▽1回戦
津女 16—3 桑名
四日市西 17—10 桑名北
朝明 14—12 津西
亀山 12—9 四日市
尾鷲 25—5 四日市南
上野 12—0 松阪女

▽2回戦
暁 15—8 津女
四日市西 23—6 朝明
尾鷲 15—13 亀山
上野 10—6 四日市商

▽準決勝
暁 25（12—1、13—1）2 四日市西
上野 13（5—6、8—4）10 尾鷲

▽決勝
暁 16（6—4、11—4）8 上野

◆第34回大阪府高校新人大会（中央大会）

（11月23、27、28日）

〈男子〉

▽1回戦
初芝 23—11 茨木
摂津 18—17 堺東
天王寺 12—11 桜宮
都島工 21—14 上宮
桃山 19—9 大阪商
貝塚南 19—17 枚方
三国丘 15—14 春日丘
此花 24—6 池田

▽2回戦
此花 28—11 摂津
桃山 21—7 三国丘
都島工 24—13 貝塚南
初芝 24—23 天王寺

▽準決勝
初芝 20（8—6、12—9）15 都島工
桃山 13（6—5、7—6）11 此花

▽決勝
桃山 21（10—7、11—11）18 初芝

〈女子〉

▽1回戦
豊島 11—6 三島
鶴見商 19—9 東百舌鳥
箕面 10—9 香里丘
宣真 8—3 枚方
摂津 8—6 桜宮
泉北 9—5 信愛
城南 19—7 貝塚南
四天王寺 6—5 初芝

▽2回戦
城南 15—12 箕面
鶴見商 10—8 宣真
四天王寺 10—3 摂津
豊島 11—6 泉北

▽準決勝
城南 15（7—5、8—5）10 豊島
四天王寺 7（4—0、3—3）3 鶴見商

▽決勝
四天王寺 7（5—1、2—1）2 城南

◆三重県高校新人大会

（1月8、9、10日）

〈男子〉

▽1回戦
桑名工 23—18 日生第二
四日市西 28—8 四中工
高田 30—21 桑名北
尾鷲 22—8 朝明
四日市 20—16 亀山
津工 20—1 津
桑名 22—8 四日市南
海星 23—16 桑名西

▽2回戦
桑名工 24—18 四日市
桑名 46—2 高田
四日市西 14—12 津工
尾鷲 23—17 海星

▽3回戦
四日市西 25—13 桑名工
桑名 28—9 尾鷲

▽決勝リーグ
四日市工 25（12—8、13—4）12 四日市西
桑名 20（7—14、13—5）19 四日市西
四日市工 18（10—9、8—8）17 桑名

（順位）①四日市工業（2勝）②桑名高校（1勝1敗）③四日市西高（2敗）

〈女子〉

▽1回戦
尾鷲 30—3 朝明
四日市商 17—2 桑名
上野 12—0 四日市南

▽2回戦
亀山 10—9 尾鷲
上野 37—0 桑名北
津女 18—6 四日市西
四日市商 20—6 四日市

▽3回戦
津女 19—4 亀山
四日市商 12—7 上野

▽決勝リーグ
暁 15（7—3、8—5）8 津女
津女 7（5—4、2—2）6 四日市商
暁 19（13—2、6—1）3 四日市商

（順位）①暁高（2勝）②津女子高（1勝1敗）③四日市商業（2敗）

◆第6回北信越高校選抜大会

（1月15、16日）

〈男子〉

氷見 22（12—4、10—5）9 屋代
小松 24（13—12、11—5）17 北陸
氷見 35（14—5、21—4）9 柏崎工
小松 17（9—8、8—9）17 屋代
北陸 33（15—9、18—8）17 柏崎工
屋代 27（12—10、15—8）18 北陸
小松 35（16—3、19—2）5 柏崎工
氷見 18（9—10、9—8）18 北陸
屋代 34（19—11、15—2）13 柏崎工
氷見 18（12—7、6—6）13 小松

（順位）①氷見②小松③屋代

〈女子〉

仁愛女 12（5—5、7—2）7 佐久
小松市女 25（11—4、14—3）7 高岡商
仁愛女 17（6—3、11—3）6 新潟江南
小松市女 21（11—4、10—3）7 佐久
高岡商 16（8—4、8—7）11 新潟江南
佐久 14（8—3、6—7）10 高岡商
小松市女 26（9—1、17—2）3 新潟江南
仁愛女 10（6—5、4—4）9 高岡商
佐久 19（11—3、8—3）6 新潟江南
小松市女 13（6—1、7—2）3 仁愛女

（順位）①小松市女②仁愛女③佐久

【表紙写真】第34回全日本総合選手権女子決勝戦。

写真提供・読売新聞社

日本ハンドボール協会告知板

黒　板

6〜7日　国体視察　荒川専務（沖縄）

8〜13日　公認コーチ講習会（青少年スポーツセンター）

11〜13日　第14回男子実業団トーナメント（上尾運動公園体育館）

16日　男子ナショナルチーム　ヨーロッパ遠征

19日　昭和57年度第2回全国評議員会
昭和57年度第4回全国理事会

事務局からご連絡

1「ハンドボール競技規則　56〜59年度」が，できておりますのでご利用ください。
尚英文のものもあります，それぞれ定価５００円です。

2 当協会への振込№を次の通り変更いたしました。

イ・財団寄付関係

大和銀行渋谷支店
普通　３８８７４９
財団法人日本ハンドボール協会設立準備会
代表　斎藤英四郎

ロ・通常振込

東海銀行渋谷支店
普通預金　232—305
(財)日本ハンドボール協会
会長　斎藤英四郎

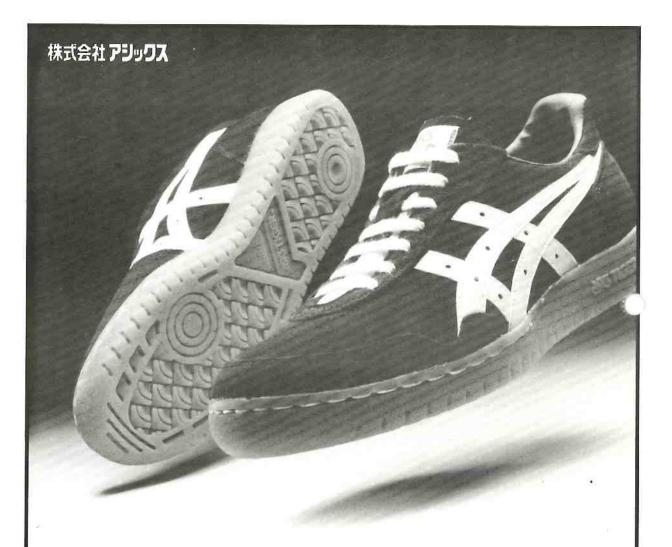
ハ・日本リーグ関係

大和銀行渋谷支店
普通預金　6235845
日本ハンドボールリーグ運営委員会
安　藤　純　光

叙勲おめでとうございます

日本ハンドボール協会会長の斎藤英四郎氏が昨秋“勲”一等瑞宝章を叙勲されました

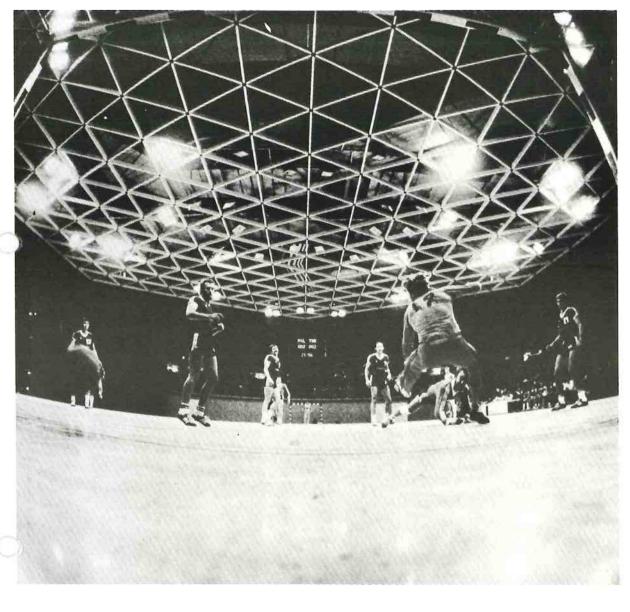
斎藤英四郎氏は明治44年11月22日生
現在　新日本製鉄(株)代表取締役会長
(財)日本ハンドボール協会会長に 昭和52年4月1日就任

株式会社アシックス

ストップ&ジャンプ自在。

グリップ力抜群のニューソール装備、新製品〈スカイハンドスペシャル〉

アシックスタイガーの新製品 スカイハンドスペシャル はストップ&ジャンプが自在にできるハンドボール専用シューズです。
写真の底意匠にご注目ください。複雑なトレッド(溝)をソール全面に刻み込んでいます。これは、ハンドボール特有の、多角的な動きに対応するためで、とくに拇指球下のリング状意匠はグリップ力を飛躍的に高めます。このため、選手は思うようにストップでき、また思うようにジャンプすることができます。
●甲被はステア表革と銀付ベロアの2タイプ。●独創のカップソールは甲被を食わえ込む設計で、足ブレを防ぎます。●大型ヒールカウンターはカカトをガッチリ保持し、選手の動作能力を高めます。
●軽さ、クッション性も卓越。
ストップ&ジャンプの スカイハンドスペシャル で栄光をつかんでください。

スカイハンド スペシャル(THH705) NEW
●甲被はステア表革(ホワイト)、銀付ベロア(レッド、ロイヤルブルー)、裏地はナイロン。●アウターソールはラバーのカップソール。●ロイヤルブルー×ホワイト、ホワイト×レッド、レッド×ホワイト。●サイズ 22.5~28.0cm
標準小売価格 ¥12,000

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二一五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五八年一月二十五日 印刷
昭和五八年二月一日 発行

ドラマは「アディダス」と共にやってくる。

世界選手権。オリンピック。ヨーロッパカップ。ゲームが高度になればなるほどアディダスの真価は100%発揮されます。鍛えぬいた実力を、大切な一戦で確実に引き出してくれるハンドボールシューズ・ウェア。世界の強豪、そしてわれわれが〈スリー・ストライプス〉を選ぶ理由は、ただ一つ、勝利への熱い意欲です。

株式会社デサント/美松スポーツ用品株式会社

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）